

福山駅周辺デザイン計画 2025

赤字が修正箇所

ストーリー

I はじめに

01	めざす福山駅前の姿	5
02	市域一体、備後圏域全体の発展	6
03	計画の目的	7
04	計画の位置付け	8
05	計画の期間	9
06	計画のプロセス	9

II ウォーカブルなまちづくり

01	ウォーカブルな取組の必要性	11
02	世界の動向	13
03	日本の動向	15
04	福山市のウォーカブルなまちづくり	17
05	ウォーカブルなまちづくりとグリーンインフラ	20

III エリア価値を高める戦略

01	エリア価値を高める経済循環	23
02	福山駅周辺の現状と課題	24
03	再生の方向性と取組	25
04	プロジェクトを進めるための視点	28
05	ウォーカブルな駅周辺の実現プロセス	31
06	拠点とウォーカブルエリアの設定	32
07	主要な歩行者・車両動線のイメージ	33
08	事業の実施プロセス	34

IV エリアビジョンとプロジェクト

01	4つのエリアビジョン	36
02	福山城周辺エリア	37
03	伏見町周辺エリア	41
04	三之丸町周辺エリア	52
05	中央公園周辺エリア	60
06	各エリアの関連事業（全体図）	63
07	4つのエリアに共通して行われる事業と 周辺地域と連携して行われる事業	64

V 参考資料

01	福山駅周辺の整備イメージ	72
02	駐車場が集積している場所	75
03	歩行者空間のイメージ	76
04	交差点のイメージ	77
05	ウォーカブルなストリートのイメージ	78
06	これまでの成果	80
07	これからの目標	82
08	福山駅前デザイン会議の開催経過	83
09	福山駅前デザイン会議構成員名簿	84
10	用語解説	85

ストーリー



駅前に引っ越してきてもうすぐ5年が経つ。

子どもが産まれたことをきっかけに、子どもが安心して遊べる芝生の広場があり、職場にも近いこの場所に移り住んだ。

福山は車社会だ。私も郊外に住んでいたときは車通勤で、渋滞につかまると職場まで1時間近くかかることもあった。

それが、今は歩いて5分。毎朝の支度も焦ることはないし、子どもとゆっくり朝ごはんを食べる時間は幸せだ。

今の駅前は昔、福山城の城郭内だったそうだ。

どこか、そのゆったりした雰囲気をとどめ、緑あざやかな芝生と綺麗なばらがあふれる広場が広がる。

駅の北側にあるお城から南側の広場までは、車を気にせず安心して歩くことができる気持ちいい空間だ。

近くの保育園から遊びに来た子どもたちや、お茶をしに来たおじいちゃん、おばあちゃん、カフェのテラスでウェブ会議をしている子ども連れのママ、イベントの企画をしている学生たちなど、いろんな人が自由に過ごしている。

『パパー』

いい天気だから外でミーティングをしようと、同僚たちとお気に入りのコーヒースタンドに立ち寄ったところに、私を見つけて娘が手を振る。

保育園の外遊びで広場に来ていたようだ。広場をつつむ子どもたちの楽しそうな声は、駅前の日常になっている。

これほど駅の近くにあり、ジャズの演奏や市民コーラスの発表など、日常に溶け込んでいるお城は全国でも珍しいようだ。城郭の中に泊まるというコンセプトで、古い建物を活かした個性的な宿やゲストハウス、瀬戸内の新鮮な食材や伝統食を楽しめる飲食店も増えた。



そんな駅前が福山や備後ならではの魅力を感じられる場所として知られるようになったからか、最近は大きなスーツケースをひく観光客の姿もよく見かける。海外の観光客にはサイクリングが人気のようで、駅前で自転車を組み立てて鞆の浦に向けて気持ちよさそうに走る姿はお馴染みの光景になった。

最近変わったと思うことは、福山にゆかりがあることを誇らしく思っている人たちが増えたこと。

私の職場には東京の会社と副業している同僚がいる。

地元の福山に関われることにやりがいを感じて、月に何度か福山で働き、そんな仲間たちと部屋をシェアして住んでいる。

彼をはじめとして、ビジネスマンがデニムスーツを着ている姿は福山では普通になった。形だけでなく素材にこだわる若手デザイナーのオフィス兼ショップが増えてきたからかもしれない。

知る人ぞ知る質の高いデニム製品など、ここでしか手に入らないこだわりの品を目当てに、周辺のまちからもたくさんの人が訪れるようになった。

おいしそうな匂いが漂ってくる夕方。

共働きなので、帰宅前に近所のおばあちゃんたちが運営するお惣菜カフェに立ち寄るのが日課になっている。隣のオーガニックスーパーでは新鮮で安心な地元の野菜が手に入る。

今日は早く上がれそうなので、もう一品なにかつくろう。

辺りが薄暗くなると、ワインバーやバルが並ぶ一角には人が集まり、昼間とは違ったにぎわいを見せる。

子どものお迎え前に、近所のパパ友ママ友と他愛ない会話も楽しみのひとつだ。週末の家族サービスのバーベキュー企画もまとまった。

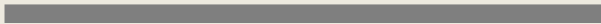
こうして暮れていく駅前の1日。

働き、住み、楽しむことがつまった駅前での暮らしに、ささやかな幸せを感じている。

福山駅前再生ビジョンより



I はじめに



01 めざす福山駅前の姿

“働く・住む・にぎわい”が一体となった福山駅前

福山市や備後圏域が持続的に発展するためには、福山駅前が市内外から人々を惹きつける魅力的なエリアとして機能する必要があります。これまでの福山駅前の整備は、交通や商業の機能の充実が優先されてきましたが、それに加えて働き方や住む場所など自分に合う暮らしが選択でき、若者や女性、子育て世代からシニア世代までが健康で安心して過ごせる質の高い生活空間を提供することが求められます。

そのため、経済活動に加えて、人々の生活を中心とした豊かな暮らしを実現する機能を福山駅前に集積させます。

福山駅前は新たなビジネスの拠点となり、生活様式の変化に対応し、関わる人々が交流することで新たな魅力や活気を生み出すエリアとなることをめざします。

市民、事業者、行政が連携してこの目標を実現することで、福山駅前のエリア価値^{※1}を高め、福山市や備後圏域の都市イメージを発信する拠点として、経済活動や雇用を創出し、観光客や訪問者を受け入れる産業・観光の中心地となります。



02 市域全体、備後圏域の発展

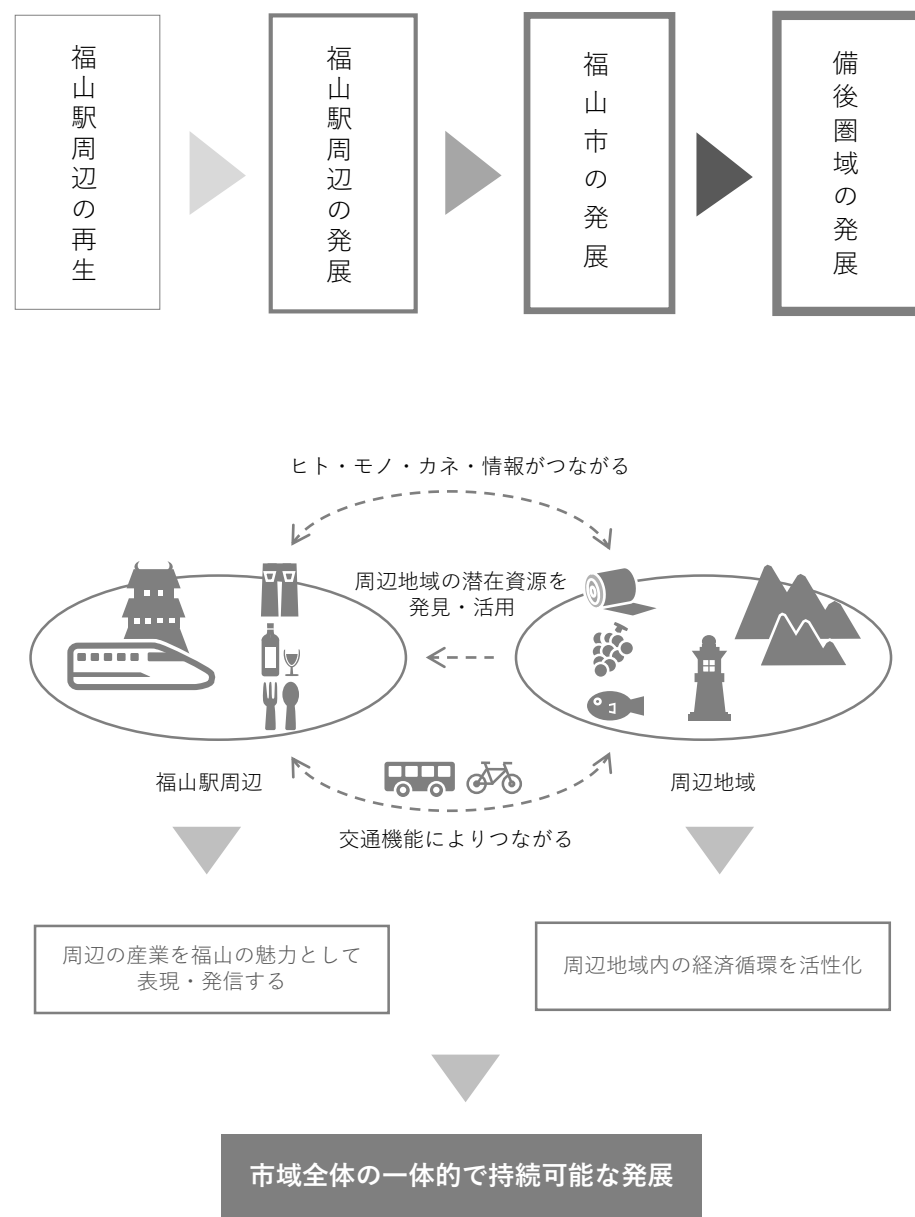
市域全体の一体的で持続可能な発展

2020年度（令和2年度）から、福山駅前アクション会議などを周辺地域でも開催し、駅周辺で活躍している人と周辺地域で活躍している人や産業を元気にし、つないでいく取組を行っています。福山の食文化や自然を生かした、地域内で経済を循環させる仕組みづくりなど、具体的な取組が生まれています。

福山駅周辺の再生と合わせ、周辺地域の駅を中心としたにぎわい再生や拠点づくりが進んでいます。地域内外の多様な主体が共に創る地域づくりを進め、周辺地域の課題解決や魅力創出に向けて福山駅周辺に集まる人や企業を周辺地域に結び付けていきます。

本市の都市核である福山駅周辺と周辺地域のヒト・モノ・カネ・情報がつながることで相互に経済の好循環を生み出し、SDGsの視点を踏まえた市域全体の一体的で持続可能な発展をめざします。

駅周辺の再生と、周辺地域の潜在資源の発見・活用が連動することで新しい持続する産業を生み出し、その効果を備後圏域へと波及させていきます。



図表1 市域全体の一体的で持続可能な発展

03 計画の目的

ウォーカブルなまちをめざす

福山駅周辺デザイン計画（以下「デザイン計画」）は、福山駅前再生ビジョンに掲げる、「働く・住む・にぎわいが一体となった福山駅前」の実現に向け、行政と民間が行う具体的なソフトとハードのプロジェクトを定めた官民連携の計画です。

このデザイン計画を官民が連携して着実に進め、店舗や施設のほか、人が快適に過ごせる場所の整備など福山駅周辺をさらに魅力的にしていける良質な民間投資の呼び込みや公共空間の活用などにより、福山駅周辺を居心地が良く、歩いて楽しい「ウォーカブルなまち」をめざします。



ローズナード霞



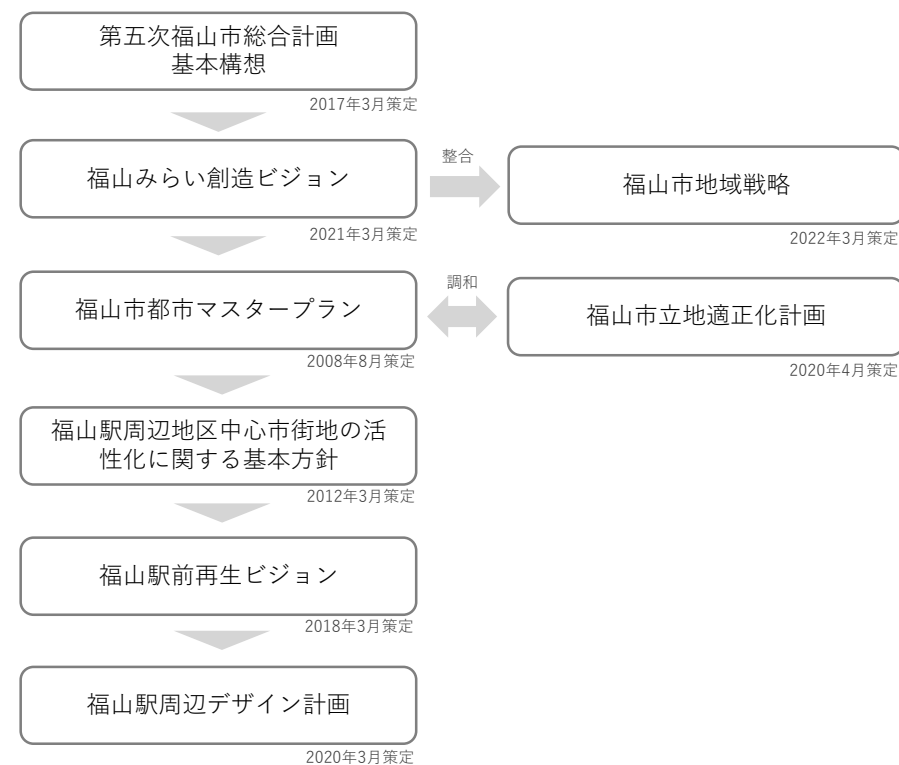
公共空間や民間所有の空間の活用のイメージ

旧駅前交番跡地

04 計画の位置付け

デザイン計画は、福山駅周辺再生の基本計画です。この計画では、**官民連携によるウォーカブルなまちづくりに取り組むため、エリアビジョンやウォーカブルエリア※²を定めています。**

また、福山駅周辺再生に資する主な事業を関連事業として掲載しています。関連事業は、個別の事業計画などに基づいて実施されます。



図表2 計画の位置付け

05 計画の期間

デザイン計画は、10年間を1期として策定し、概ね5年を目途に社会情勢の動向を見極めながら適宜見直します。

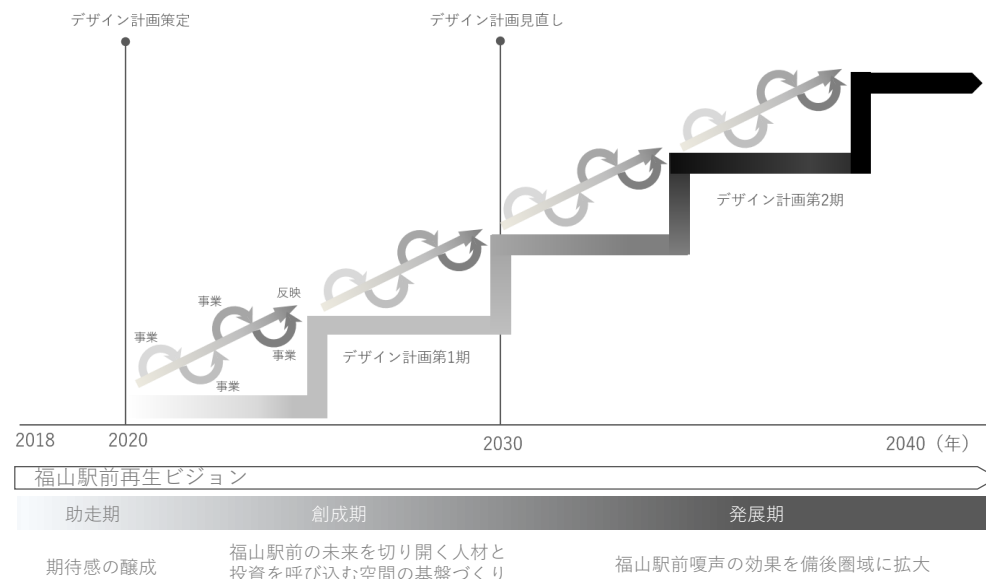
まちを使う市民や事業者が活動しやすい環境になるよう、ライフスタイルの変化やプロジェクトの進捗など、社会情勢の変化に柔軟かつスピーディーに対応し、見直しを重ねながら進化させていきます。

06 計画のプロセス

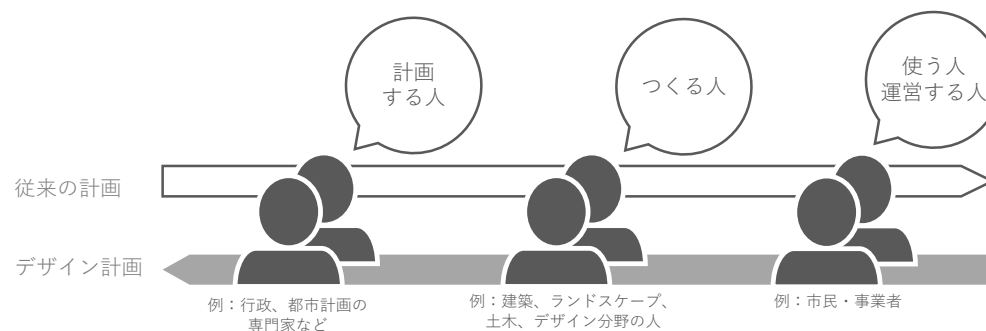
従来のまちづくりは、「計画する→つくる→使う」というプロセスで行われています。デザイン計画では、これとは逆のプロセスをたどります。

まず、エリア価値創造フォーラムなどに参加する市民や事業者など実際にまちを使う人が意見を出し合い、その意見などをもとに実験的な取組を行います。

その結果を反映させて具体的な計画に結びつけていくというプロセスで進められます。

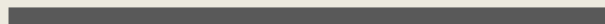


図表3 計画の期間



図表4 計画策定のプロセス

II ウォーカブルなまちづくり



01 ウォーカブルな取組の必要性

ウォーカブルなまちづくりの効果

これまでの、交通の利便性、効率的な移動など車中心のまちづくりが進められてきましたが、近年、人中心の空間への転換のほか、気候変動の加速や生物多様性確保への対応といった環境への配慮も必要となっています。

世界中の多くの都市で、まちなかを”人中心”の空間へと転換し、人々が集い憩い多様な活動を繰り広げられる場にしていく取組が進められています。

ウォーカブルな空間に転換していくことは、人々が安全・快適に滞在できる空間を確保することだけでなく、次に示すようなコンパクトで持続可能なまちづくりへの寄与など効果が期待できます。

健康によい

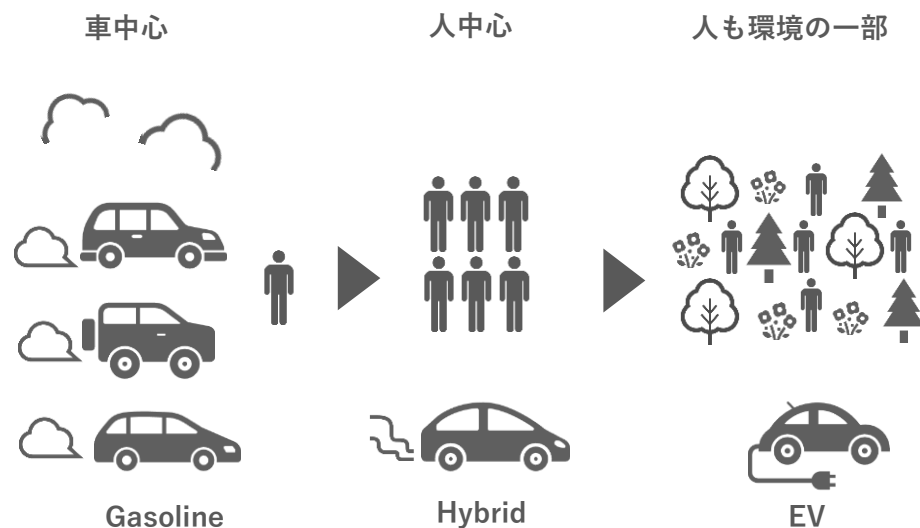
ウォーカブルの取組は人が歩くことを促します。歩くことで、病気の予防に役立ちます。健康な人が増えると医療費の抑制など健康的な社会をつくることにつながります。

環境によい

歩くことが増えると、車の利用が減ります。二酸化炭素の排出が減り、大気汚染が軽減、騒音も減るなど持続可能な環境づくりにつながります。

交通渋滞の緩和

車の利用が減ることで道路の混雑が少なくなり、移動時間が短縮され、移動のストレスが減るなど効率的な交通システムが実現できます。



安全なまち

道路や公園などの整備により歩行者の安全が確保され、事故のリスクが減ります。歩く人が増えることで地域の見守りも強化され犯罪も減り、安心して暮らせる環境が整います。

地域経済の活性化

（経済の好循環）

年間約1,300万人が利用する福山駅の周辺において、道路、公園、広場、民間空地などを居心地がよく歩きたくなる空間や人と人が交流できる空間に変えることで、人の流れが生まれ、出会いや交流の機会が増え、滞在時間が延びます。滞在時間が延びることで消費の機会が増え、店舗出店などの投資が生まれます。出店が増えることで、さらに人を呼び込み、経済の好循環につながります。

（人材の確保）

また、日常的に人が集い、憩う空間やイベントが開催されるなど居心地よい空間が増えるとまちのイメージが高まります。イメージの良いまちには人が集まります。来訪をきっかけに移住希望や働きたい人など多様な人材が増え、企業は人材確保がしやすくなり、成長にもつながります。人材確保できると多様な企業が集まるようになります。分野を超えて企業同士の交流も生まれます。企業間の交流の中から新たなアイデアが生まれることが期待できます。

コミュニティの強化

歩いて移動することが増え、自然に人々が顔を合わせるようになり、会話や挨拶が増えます。人と人、地域と人のつながりが親密になることで、コミュニティが強化され災害時など地域での助け合いにつながります。

観光の促進

観光スポットや文化的な施設があることで、観光客も歩いて楽しむことができます。地域にお金が落ちることで、地域経済の活性化にも寄与します。

まちの魅力向上

歩行者に配慮されたまちづくりは、歩道や広場、公園や緑地など公共空間の質を高めます。人と人が自然と触れ合え、交流でき、憩える場所が増えたり、イベントなどを楽しんだりできる場所が増えることで、まちの魅力が高まります。



駅前広場

02 世界の動向

SDGsにおける位置づけ

SDGsとは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、2015年（平成27年）9月の国連持続可能な開発サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年（平成28年）から2030年（令和12年）までの国際目標です。

SDGsでは、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、17のゴール（目標）とそれを達成するための169のターゲット（達成基準）が掲げられています。

デザイン計画は、SDGsの17の目標のうち、特に6つの目標（5、8、9、10、11、17）が関連することから、同じ目的意識を持って計画を推進することにより、SDGsの達成に貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



出典：国際連合広報センター

ウォーカブルなまちづくりの取組

ウォーカブルなまちづくりは、近年世界中の都市で進められており、歩行者に優しい環境を整備することで、生活の質を向上させるとともに、都市の魅力を高めています。

ウォーカブルによる気候変動対策（デンマーク・コペンハーゲン）

広場や道路を緑豊かな空間に整備し、雨水を保水しやすい緑地を設けることで、都市環境の改善に取り組んでいます。これにより、快適で安全なウォーカブルな空間が創出されるだけでなく、洪水リスクなどの低減といった気候変動への適応も図られています。

スーパーブロック計画（スペイン・バルセロナ）

スーパーブロックは、9つの街区をまとめたエリアでブロック内部の道路は歩行者と自転車専用を設定。交通量が減少し、騒音や大気汚染が軽減され、住民の生活の質が向上しています。

15分都市構想（フランス・パリ）

徒歩や自転車で15分以内に必要な施設にアクセスできる「15分都市構想」を推進。2020年（令和2年）のロックダウンを契機に、複数のエリアで車両通行制限や自転車専用レーンを整備。市民が日常生活で徒歩や自転車を利用しやすくなりました。



緑豊かな空間を創出することで気候変動への対策を推進（コペンハーゲン）



ブロック内には、広場や公園コミュニティスペースが設けられ、住民が安心して過ごせる環境が整備（バルセロナ）



日常生活で徒歩や自転車利用がしやすくなり、都市の持続可能性が高まった（パリ）

03 日本の動向

ウォーカブルなまちづくりの背景

日本におけるウォーカブルなまちづくりの背景には、人口減少や少子高齢化の進行、商店街のシャッター街化など地域の活力低下が懸念される中で、都市の活力向上や持続可能性の追求があります。

世界中の多くの都市で、街路空間を車中心から人中心の空間へと転換し、沿道と路上を一体的に活用し、人々が集い、憩う場をつくる取組が進められています。

国土交通省では、新たなまちづくりの方向性として「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成をめざして、2019年6月にウォーカブルなまちづくりの形成を推進することを発表しました。

ウォーカブルなまちづくりを推進する「ウォーカブル推進都市」には385の自治体の賛同があり（2025.1.31現在）、日本全国で取組が進んでいます。



本通商店街(とおり町)

日本におけるウォーカブルなまちづくりの取組

日本でもウォーカブルなまちづくりが進められており、歩行者に優しい環境を整備することで、生活の質を向上させるとともに、都市の魅力を高めています。

各地で歩行者専用の空間や緑豊かな憩いの空間などの整備が行われ、住民や来街者にとって快適で魅力的なまちづくりが進んでいます。

花園町通り（愛媛県・松山市）

ウォーカブルなまちづくりの一環として、花園町通りなどの道路空間を整備。徒歩や公共交通機関を利用した移動が便利になり、歩行者の安全性と快適性が向上。結果として、歩行者が整備前より2倍に増え、地域の回遊性が高まり、商業や観光の活性化にもつながっています。

康生通り・籠田公園（愛知県・岡崎市）

中央緑道を中心に康生通りと籠田公園を連結し、回遊性を高めたウォーカブルなまちを実現。車線を減らして歩行者空間を拡大し、緑豊かな歩道を整備することで、快適な散策路を提供。籠田公園のリニューアルにより、地域の祭りが復活し、若い世代の人々の自治会活動への参加も増えています。

大手前通り・駅前広場（兵庫県・姫路市）

姫路駅前広場と大手前通りを中心に、歩行者優先のウォーカブルなまちづくりを推進。再整備により、快適な歩行空間と多様なイベントスペースが整備され、住民や観光客が安心して楽しめる環境が実現。これにより、駅周辺の商業地地価が25%上昇し、商業床面積も増加。さらに、魅力的なカフェやショップなどの施設が充実し、地域活性化に大きく貢献しています。



歩行空間が広がり、にぎわいと憩いの場になった花園町通り（松山市）

出典：松山市HP



緑豊かな道路空間と公園の連結により、エリアの魅力を向上させた（岡崎市）



駅前広場と大手前通りの連携による快適な公共空間の創出（姫路市）

出典：国土交通省HP

04 福山市のウォーカブルなまちづくり

ウォーカブルなまちづくりに取り組むことは、単に歩行者を増やしたり、車両を排除したりすることが目的ではありません。公園や広場、建物の路面階、通りなどの空間を「居心地が良く歩きたくなる」ような人中心の空間に転換し、**日常の中で歩くことを楽しむライフスタイルを創っていくことで**、多様な人材との出会い・交流を誘発し、人や企業を惹きつけるまちをめざします。

居心地が良く歩きたくなるパブリック空間

道路や公園、広場は、誰でも容易にアクセスでき、滞在できる開かれた空間です。座って食事をしたり、話をしたりすることができるベンチやテーブル、心地よい風を感じる木陰の空間、一人でも安心や心地よさを感じるプライベートな空間など、居心地が良いと感じる空間を増やすことで、駅周辺をウォーカブルなまちに転換します。

居心地が良いと感じるパブリックな空間には、緑や自然も欠かせません。緑豊かな空間は、歩行者に快適な環境を与え、長く滞在したくなる魅力的な環境をつくり、沿道の不動産の価値を高めることにもつながります。

また、建物の路面階をガラス張りにしたり、店舗の一部を誰でも使えるオープンな空間として通りなどに開いたりすることで、まちを歩く人にとって偶然の出会い・交流が生まれることが期待できます。



駅前広場

空間を一体的に捉える

駅や駅前広場は、多様な属性の人が集まる「まちづくりの中核」を担う場所であり、この場所が備えているポテンシャルを最大限効率的に発揮できるようにデザインすることが求められています。

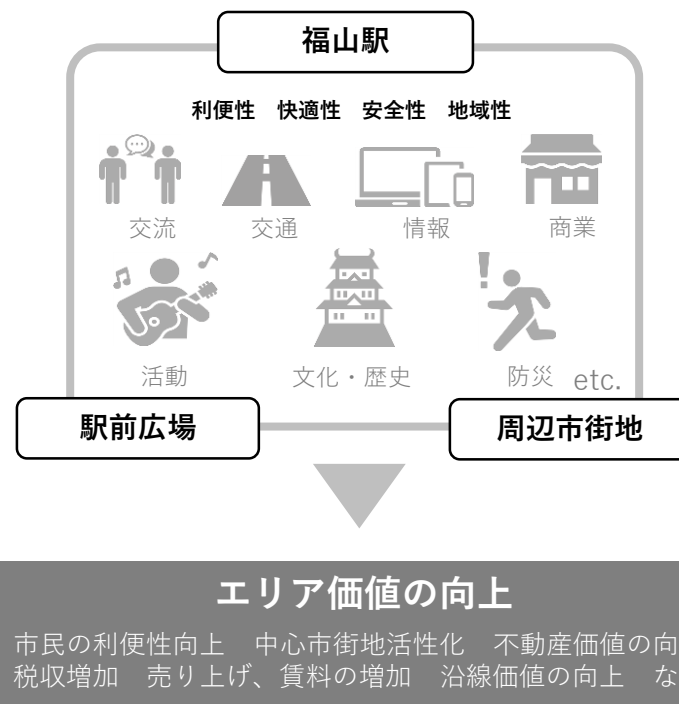
そのため、デザイン及びマネジメントを考える時には、周辺市街地との関係性も踏まえて、「備えるべき機能」「確保すべき空間」「活動を支える運営」を一体的に検討していく必要があります。

駅や駅前広場、周辺市街地を個別に捉えるのではなく、施設の所有区分に関わらず、一体的に捉え検討することで、利便性・快適性・安全性・地域性を高め、エリア価値の向上が期待されます。

多様な分野の施策との連携

ウォーカブルなまちづくりは、さまざまな分野が連携して進めることが重要です。歩くことやコミュニケーションを促進することで、心身の健康増進が期待できます。

また、グリーンスローモビリティ※4など新しい交通手段の検討・導入や新しい産業の育成などの分野とも関連しています。
単に歩行者を増やすだけでなく、その先を見据えて多様な行政課題の解決に向けて取り組む必要があります。



図表5 一体的に捉えるイメージ

官民で使う公共空間（コモンズ）

「コモンズ」とは、共有の資源や財産のことをいい、その管理や運営・活用の仕組みも含んでいます。公共空間は市民共有の財産であり、官か民かの区別を超えて、地域の皆で「わたしたちの場所」として活用していく空間といえます。

例えば、まちなかにある広場を活用して定期的にマルシェを開催したり、地域住民が道路空間を使ってにぎわいづくりの実験を行ったり、公園や緑地で市民が自由に参加できるワークショップを開催したりすることなどが考えられます。

公共空間は地域の皆が協力し、管理することで誰もが利用しやすくなり、出会いや交流を通じて、「わたしたちの場所」として機能し、お互いに信頼し合える場所となります。

このようなプロセスでは、地域のプレイヤーが主体となり、住民と協力しながらコミュニティを築いていくことが重要です。これにより、エリアマネジメント※4が行われ、ウォーカブルなまちづくりが進みます。

住民の満足度が高まり、まちの魅力が増すことで、新たな住民や来街者を惹きつけ、エリア価値の向上につながります。



駅前広場



iti SETOUCHI



駅前広場

05 ウォーカブルなまちづくりとグリーンインフラ

緑豊かな環境による生活の質の向上

グリーンインフラとは、自然環境が持つ機能を活用し、社会の課題解決に役立てる考え方です。具体的には、都市部における緑地や水辺空間の整備・活用を通じて、環境負荷の軽減や防災機能の強化、生物多様性の保全などを図ります。

ウォーカブルの取組では、人々が歩きたくなる環境づくりが欠かせません。街路樹の植栽、公園の整備など緑の豊かな空間や木陰など自然の要素を取り入れることで景観が向上し、歩行者の安全性や快適性が高まります。これらの取組により、まちの魅力が高まり、訪れる目的にもつながります。

ウォーカブルとグリーンインフラの取組は親和性が高く、持続可能で魅力的なまちなかをつくれます。緑豊かな環境は、人々の歩行意欲を高め、まちの活力や住民の生活の質の向上につながります。



アイネスフクヤマ
(東側歩道)

■ グリーンインフラの効果

グリーンインフラは、歩行者の安全や快適さだけでなく、経済的なメリットもあります。緑はCO2を吸収し、都市の気温上昇を抑制する効果があります。これは冷房の使用頻度の減少、エネルギーコストの削減により、脱炭素の取組につながります。

芝生は特に、周囲の空気を冷やし、都市の気温上昇を抑えるだけでなく、雨水を地中に浸透させることで、地表に流れる水の量を減らし、洪水のリスクを減少させます。これにより、都市の排水システムへの負担を軽減し、都市の防災力を高め、住民の安全を確保しつつ、災害復旧にかかる費用を削減できます。

緑豊かな環境は歩行意欲の向上や視覚的なリラクセス効果をもたらし、心身の健康を促進します。健康な住民が増えることは、地域全体の生産性の向上や医療費の削減など経済的なメリットを生み出します。ウォーカブルなまちづくりにおいて、健康的で活力あるコミュニティの形成は不可欠です。

また、観光やイベントの場としても活用され、地域の経済活性化に大きく貢献します。美しい緑の景観は観光客をひきつけ、地域のブランド価値を高めます。これにより、地域経済の発展が促進されます。

ウォーカブルなまちづくりにおけるグリーンインフラの導入は、単なる環境改善に留まらず、経済的な持続可能性を高めること、人々が安心して集い、多様な活動を楽しむことができる魅力的な都市空間づくりに貢献するものです。

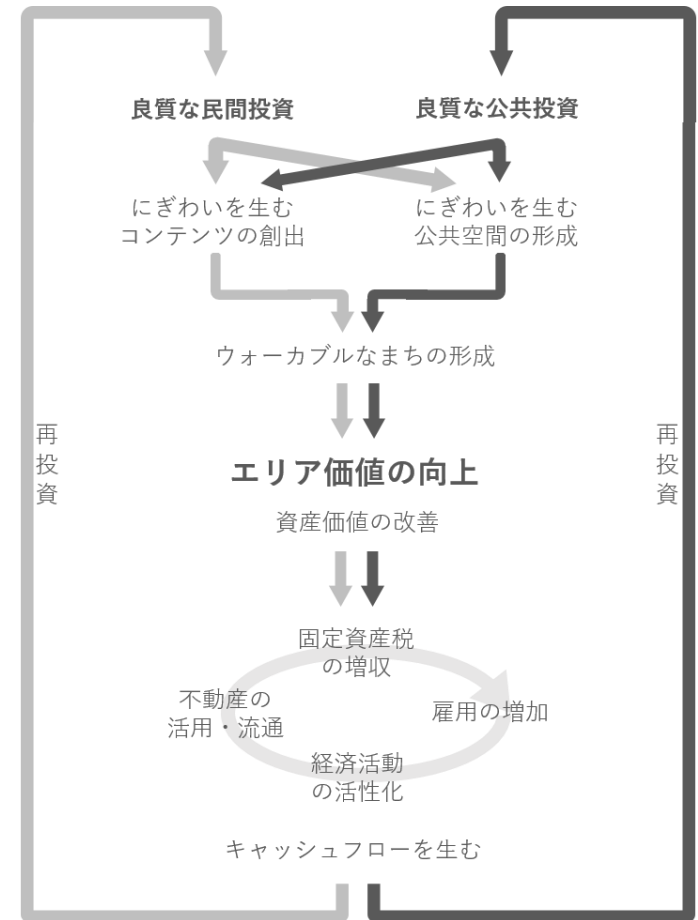


ふくやま美術館前プロムナード

III エリア価値を高める戦略

01 エリア価値を高める経済循環

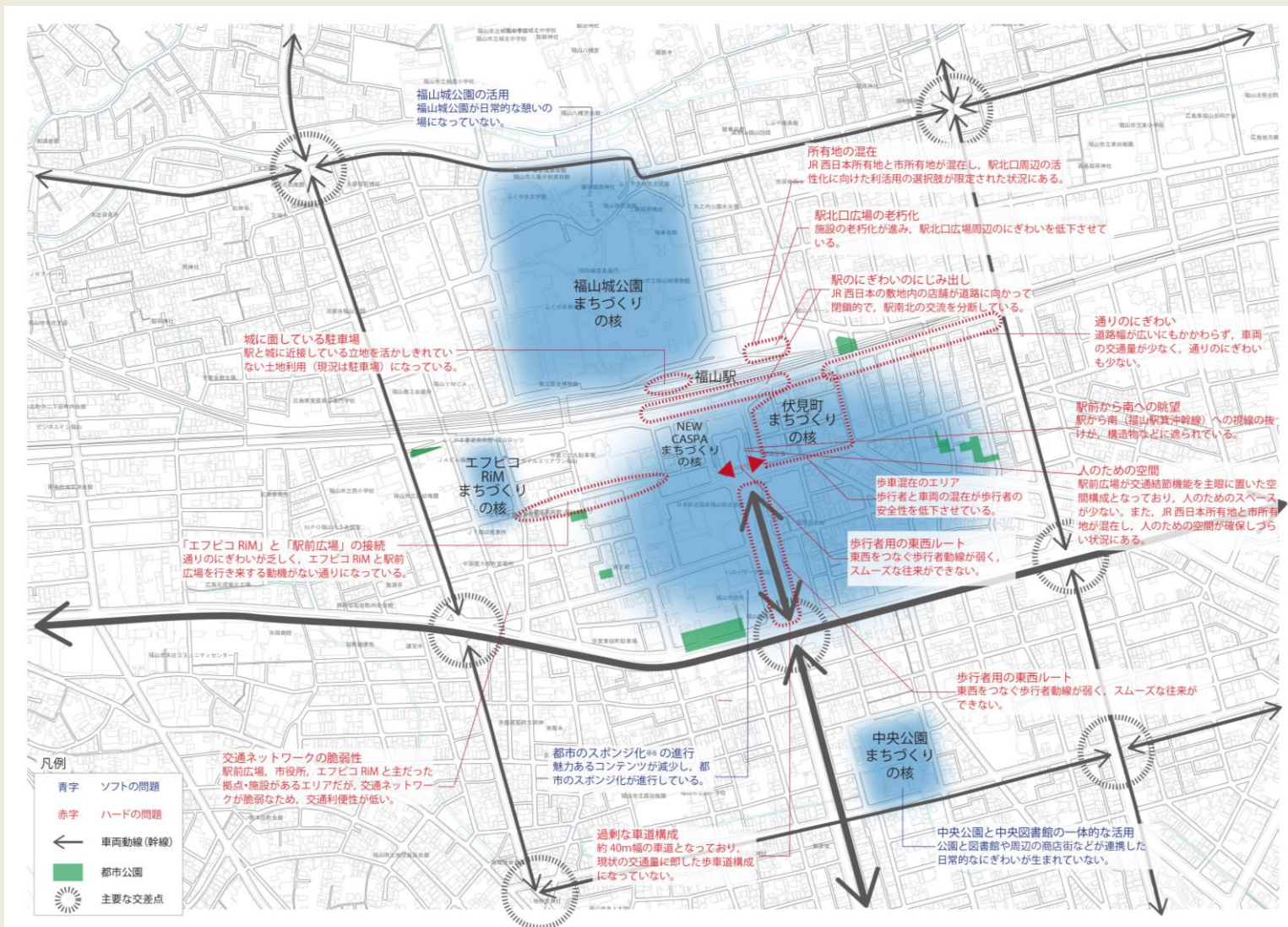
官民の良質な投資により、駅周辺に都市機能を集積させることやにぎわいを生むコンテンツ※⁵を創出すること、公共空間の形成をすることで、ウォーカブルなまちを形成し、エリア価値を高める経済循環を再構築します。



図表6 エリア価値を高める経済循環

02 福山駅周辺の現状と課題

次の図に示す問題を解決する必要があります。



図表7 福山駅周辺の現状と課題

03 再生の方向性と取組

駅周辺のエリア価値を高めるため、福山駅前再生ビジョンに掲げる6つの柱（再生の方向性）に基づき、関連事業に取り組みます。

- 現在取り組んでいるもの
- 今後、取組を検討していくもの

		福山駅前再生ビジョン 再生の6つの方向性					
		福山の伝統と柔軟な アイデアが出会う ビジネスの拠点づくり	新しいライフ スタイルの実現	福山城などを 活用した にぎわいの創出	ヒト・モノ・カネの 活発な交流を支える 交通環境の充実	地域づくり 人づくり	戦略的な情報発信
取 組	経 済	都市型産業の集積による駅周辺の経済活性化	●	○	○	○	○
		イノベーションなどを生み出す好循環システムの構築	●	○	●	●	○
		若者や女性の就業・創業支援	●	○		○	○
		遊休不動産を活用したビジネスモデルの構築	●			●	○
		エリアプロデュースとエリアマネジメントの推進	○	○		●	○
		新しい働き方の推進による地域活力の向上	●	●		●	○
	環 境	グリーンインフラの整備・活用によるまちづくり	○	●		○	○
		エコ循環による自然と調和したまちづくり		○	○	●	○
		ばらや緑を生かした心と体の健康を育む憩いの空間づくり	○	●		●	○
	文 化	福山らしいコンテンツの創出と集積	●	●		●	○
		福山城を始めとした歴史的な資産の活用	○	●		●	●
		美術館や博物館、文学館などの活用		○	●		○
		市民参画による福山城公園や中央公園の活用	○	●	●	●	○
		観光客や買い物客など他都市からの集客の向上		●	○	○	○

- 現在取り組んでいるもの
○ 今後、取組を検討していくもの

● 現在取り組んでいるもの ○ 今後、取組を検討していくもの			福山駅前再生ビジョン 再生の6つの方向性					
			福山の伝統と柔軟な アイデアが出会う ビジネスの拠点づくり	新しいライフ スタイルの実現	福山城などを 活用した にぎわいの創出	ヒト・モノ・カネの 活発な交流を支える 交通環境の充実	地域づくり 人づくり	戦略的な情報発信
取 組	インフラ	ICT、IoT、AIなどを活用した 次世代インフラの構築	○	○		●	●	○
		自動運転などスマートモビリティによる移動しやすい環境づくり		●	●	●	○	○
		ウォークアブルを促進する駐車場・駐輪場の適切な配置		○	●	●	○	○
		駅周辺から市全体への人の回遊を促進する公共交通の再構築		○		●		○
		防災性と持続性を備えた都市インフラの再構築		○			●	○
		駅前広場を起点に誰もが歩いて回遊できる動線の強化		○	●	●	○	○
		車中心社会から人中心の社会への環境整備		○	●	●	○	○
	コミュニティ	交流機会の創出によるコミュニティの促進	●	●	●		●	○
		外国籍の人が活動しやすい環境づくり	○				●	○
		コミュニティの再構築	●	○	●		○	○
		駅周辺と周辺地域の取組・ノウハウの共有	○				●	○
		エリア価値を高めることができる人材の育成と仕組みづくり			●	○	●	○
	駅前広場などを核とした市民の居場所づくり	○	●	●		○	○	

● 現在取り組んでいるもの

○ 今後、取組を検討していくもの

		福山駅前再生ビジョン 再生の6つの方向性						
		福山の伝統と柔軟な アイデアが出会う ビジネスの拠点づくり	新しいライフ スタイルの実現	福山城などを 活用した にぎわいの創出	ヒト・モノ・カネの 活発な交流を支える 交通環境の充実	地域づくり 人づくり	戦略的な情報発信	
取組	情報発信	市民目線による情報の発信	○	○	●	○	●	○
		特定の層に向けた効果的な情 報の発信	○	○			○	●
		斬新なトレンドを生み出す活 動の発信	○	○	○	○	○	○
		体験を通じた情報発信	●	○	●	●	○	●
		地域資源を活用した取組の発信	●	○	●			●
		駅周辺のイメージの構築		○				○

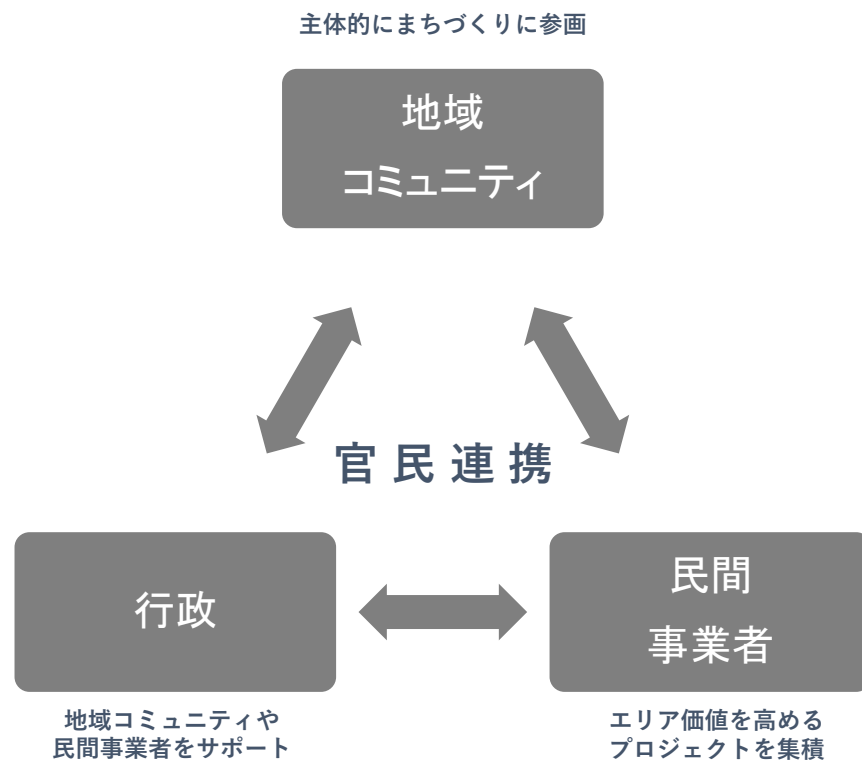
04 プロジェクトを進めるための視点

官民連携

福山駅前再生ビジョンを実現するため、行政と民間の連携が重要になります。主体的にまちづくりに参画する市民の集まりである「地域コミュニティ」、「民間事業者」、「行政」の役割を明確にし、それぞれ連携することでウォーカブルなまちを形成し、駅周辺の持続可能な発展をめざします。

また今後、地域コミュニティや民間事業者、行政などが協働し、公共サービスを提供する「新しい公共」の考え方により、さまざまな活動が推進されることが求められます。

地域コミュニティや民間事業者の意見や活動を重視し、行政がそれを支援することで、福山駅周辺を「働く・住む・にぎわいが一体となった」エリアに再生します。



図表8 官民連携の推進体制図

民間と行政の役割

デザイン計画を推進するためには、民間と行政がそれぞれの役割を理解し、連携して取り組むことが重要であり、以下のような役割が期待されます。

地域コミュニティの役割

① 公共空間の活用

地域イベントの企画と参加

地元の文化などを活かしたイベントを企画し、住民が参加することで、公共空間の活用を促進し、地域の活気を生み出す。

② エリア価値を高める取組

地域の魅力発信

地元の特産品や歴史文化などをSNSやイベントを通じて地域の魅力を発信する。

③ まちづくりへの参画

地域住民の意見集約と提案

住民の意見やニーズを集約し、まちづくりに関するワークショップなどに参加して、具体的な提案やアイデアを共有することで、住民主体のまちづくりを進める。

民間事業者の役割

公共空間の柔軟な利活用

道路や公園、空きスペースを活用して、まちにしみ出すような多様なアクティビティを誘発することで、新しいにぎわいや魅力を創出する。

エリア価値を高める事業の推進

駅周辺の魅力を高めるため、駅周辺の特性や資源を生かすなど、エリア全体の価値を向上させる事業を展開する。

事業の提案と実施

新規事業の提案を行うことで、エリアの発展に向けた具体的なアクションを起こす。また、地域のニーズなどを反映した事業を実施し、まちづくりに主体的に参加する。

行政の役割

公共空間の再整備

道路や公園などの公共空間の再整備を行い、民間事業者や地域コミュニティと連携して、人が集まりやすく、憩い・楽しめる空間を創出する。

規制の見直しと支援

イベントを行うための規制の見直しなど、地域コミュニティや民間事業者が活動しやすい環境を整備し、エリアの魅力向上の支援を行う。

参画の機会提供と支援

エリア価値を高めるまちづくりに関する勉強会やワークショップを開催し、地域コミュニティや民間事業者がまちづくりに参画しやすい環境を整える。

地域コミュニティの役割

④ 持続可能な資金調達

地域内での資金協力

地域のイベントなどに対して、協力を募るなど、自主的に資金を出し合うことで、地域のイベントなどを支えるための資金を確保する。

⑤ 人材育成の促進

地域リーダーの育成と活動

地域のリーダーや積極的な住民が中心となって、交流会や勉強会を開催し、地域の活性化に向けたアイデアを共有し、実行する。

⑥ エリアマネジメントの推進

自主的なエリア管理と協力

地域住民が主体となり、エリアの清掃や美化活動などを行い、エリアの魅力を維持します。また、エリアマネジメント組織との連携を強化します。

民間事業者の役割

補助金に頼らない資金調達

過度に補助金に依存せず、自己資金や民間資金を基にした現実的かつ持続可能な事業計画を立て、事業を進める。

専門スキルの提供

民間事業者が持つ専門知識や技術を活かし、研修やセミナーなどを通じて地域の人材に対して実践的なスキルを提供する。

エリアマネジメント組織の設立

地域コミュニティや行政と連携し、まちづくりの全体的な視点を持ち、主体的に事業を行っていくエリアマネジメント組織を設立します。

行政の役割

ファイナンスの仕組みづくり

金融機関などと連携し、事業化に必要なファイナンスの仕組みを整備します。

エリア価値を高める人材の育成支援

大学や専門機関と連携し、エリア価値を高めるための手法を学ぶ勉強会やワークショップを開催し、地域の人材育成を支援する。

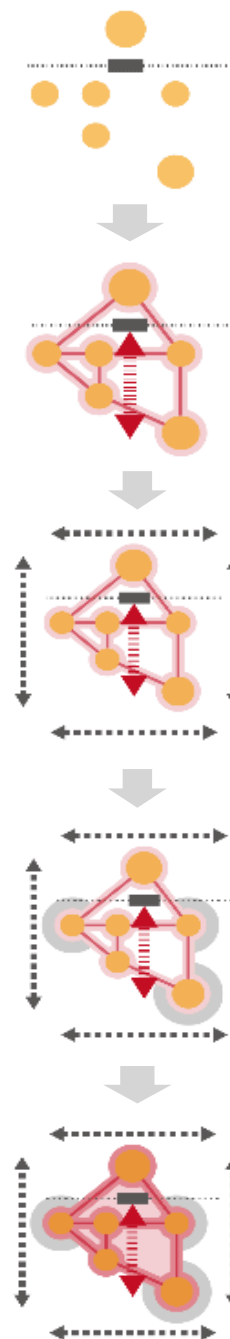
エリアマネジメント組織の設立支援

地域コミュニティや民間事業者と連携して、駅周辺エリアの管理と運営を行う組織を立ち上げ、その活動を支援します。

05 ウォーカブルな駅周辺の実現プロセス

次のようなプロセスでウォーカブルな駅周辺を実現します。

拠点を中心に、新たな人の流れを生み出すとともに、一般車や公共交通、自転車、歩行者、グリーンスローモビリティなどの新たな交通手段について、ウォーカブルエリア全体の交通計画を段階的に進めていく必要があります。



1 拠点の設定

まちづくりの核である福山城や中央公園・中央図書館、エフピコRiM、伏見町や駅周辺の徒歩圏内にある施設などを人が集まる拠点として設定します。

2 歩行者動線とウォーカブルエリアの設定

拠点間をつなぐ歩行者動線を含む範囲をウォーカブルエリアとして設定します。

3 車両動線の設定

軸となる車両動線を設定します。

4 駐車場の誘導・集約化

周縁部などに駐車場を誘導・集約化することで、ウォーカブルエリア内への車両の進入を抑制します。

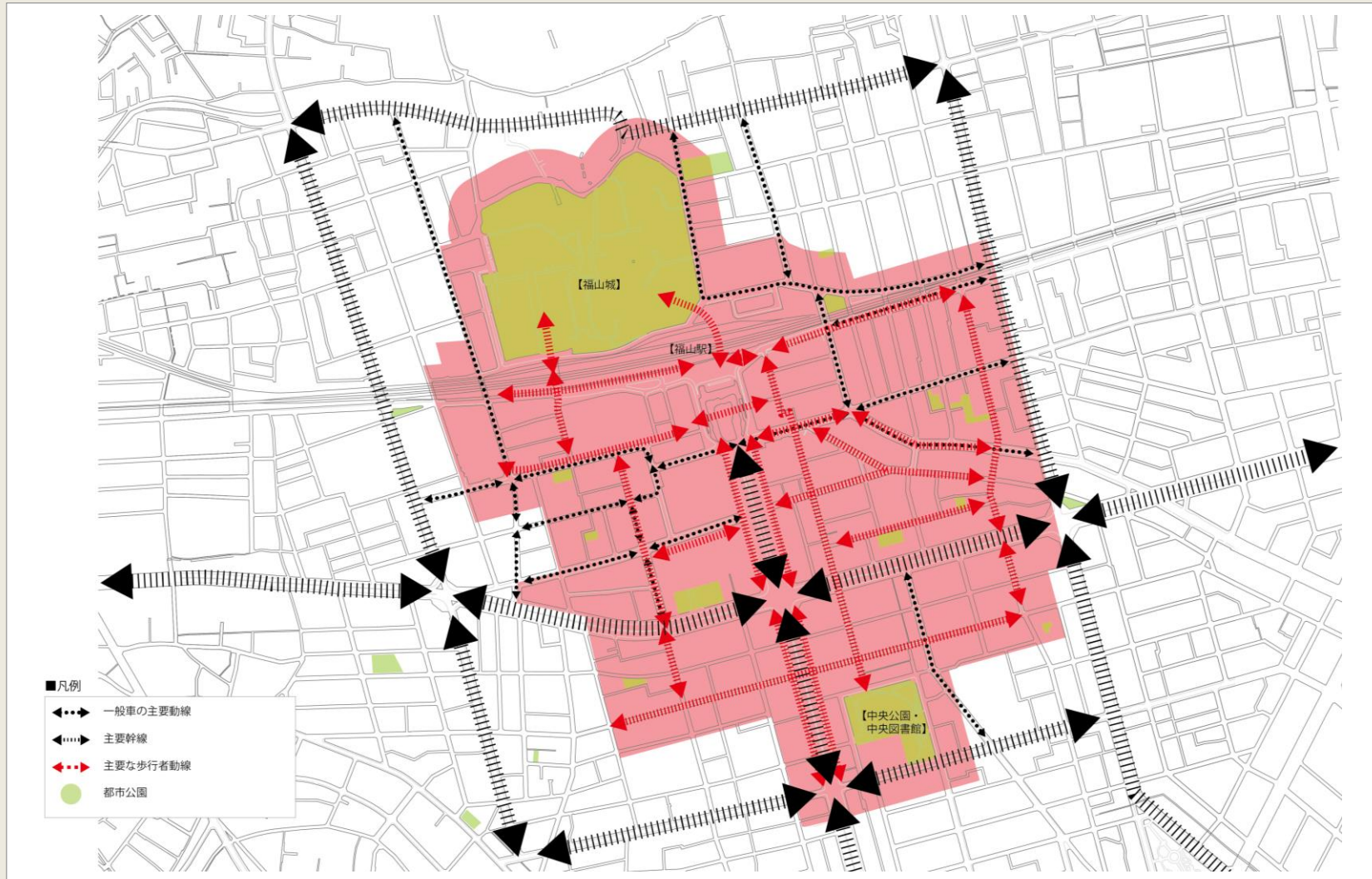
5 ウォーカブルな駅周辺の実現

ウォーカブルエリア内において、コンテンツの創出と公共空間の活用が行われ、車でも来やすく、歩いて楽しい空間を創出します。

図表9 ウォーカブルな駅周辺の実現プロセス

※主要な通りの道路端から概ね30mの区域、かつ、商業地域で建築物の容積率が500%以上の区域の一部をウォークアブルエリアとして設定

07 主要な歩行者・車両動線のイメージ



※今後、調査・検討をしていく中で変更となる可能性があります。

図表11 主要な歩行者・車両動線のイメージ

08 事業の実施プロセス

ウォーカブルなまちの実現に向け、人口減少や経済状況など不確実性の高い社会情勢においてもいかにデザイン計画の考え方に沿った事業を行っていくかが課題となります。

そこで今後駅周辺で新たな取組を始める際のプロセスの一例を示します。

公共空間の整備だけでなく、民間事業を検討する際にも参考になると考えます。

Step1 将来像・課題の共有

街区や通りなどの小規模な範囲において、めざす将来像やその実現に向けた課題などを、関係する地権者や事業者などと共有することが必要です。将来像や課題は、資産（土地・建物）の価値を維持、向上させるための活用策を一定のエリア単位で考えるものであり、今後起こり得る民間投資をゆるやかに誘導することにもつながります。地元団体などで将来像を話し合う際は、行政も同席し、一緒に考えることもできます。

Step2 試験的な取組

Step1の課題の解決に向けた取組を試験的に行います。

人口減少の影響や経済の不安定性など不確実性の高い社会情勢において、最初から大きな投資を行うのではなく、試験的な取組を重ねることで、社会情勢に応じた持続性のある事業とすることが重要です。

当初から完成されたものをつくることをめざすのではなく、「使いながらつくっていく」という視点をもって取り組んでいく必要があります。具体的な使い方（ターゲットなど）をイメージし、コストと時間をなるべくかけず、スピーディに取組を重ねていくことが重要です。民間事業の場合でも、公共空間を活用した実験や一時的な利用が考えられます。

Step3 評価・反映

試験的な取組によって得られた成果などを踏まえて本格的な実施に向けた検討を行います。

新たな課題などが生じた場合や課題の見直しが必要な場合は、Step1に戻り、改めて将来像や課題について議論、共有することが必要です。

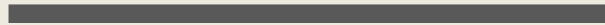
常に新しいことにチャレンジし、新しい環境に適合した取組を生み出そうとする動きを積極的に行うことで、まちの持続性を高めることにつながります。

Step4 本格実施

複数回の試験的な取組を重ね、本格実施の見通しが立てば、本格的な実施（整備）を行います。

その際にも今後の社会情勢の変化などに柔軟に対応できるよう、柔軟に事業内容を見直すことや汎用性のある空間デザインを取り入れることなどが重要になります。

IV エリアビジョンとプロジェクト



01 4つのエリアビジョン

駅周辺を4つのエリアに分け、それぞれのエリアの特性を生かした魅力と特徴のある将来像（エリアビジョン）を示します。

このエリアビジョンに沿った良質な民間投資を呼び込むことで、駅周辺に性格の違うエリアを形成し、人々の価値観や目的に応じた行き先の選択肢を増やします。

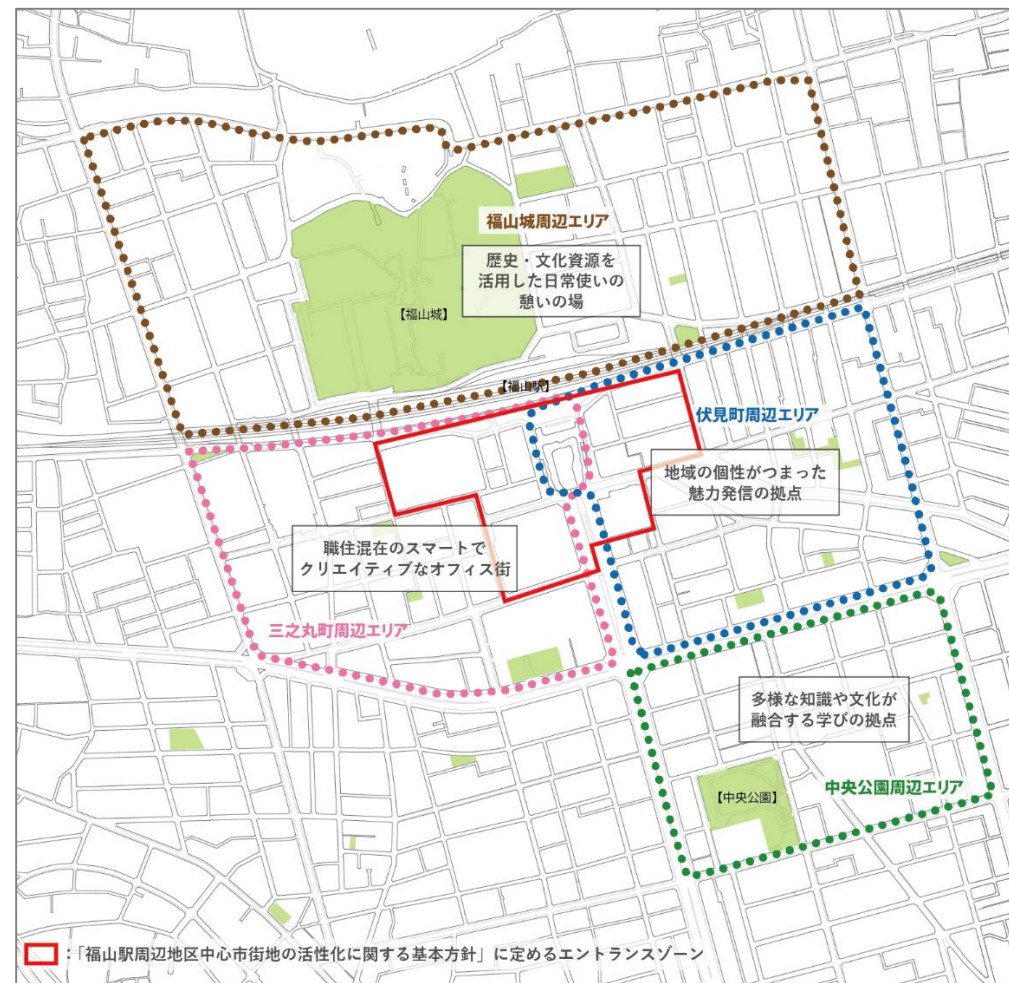
次頁以降では、それぞれのエリアに応じたエリアビジョン、エリアイメージ、取組の方向性、関連事業に加え、周辺地域と連携して行われる関連事業を定めます。

「ふくまち」プロジェクト

4つのエリア（「福山城周辺エリア」「伏見町周辺エリア」「三之丸町周辺エリア」「中央公園周辺エリア」）を再生するプロジェクトの総称です。

『ふくまち』の総称は、応募総数1,156点の中から市民投票によって選ばれました。

「福山のまち」「福を待つ」「新しい風が吹くまち」という意味が込められ、幸福な時間を過ごせる場所、駅前で大切な人と待ち合わせる場所をイメージしています。



図表12 4つのエリアビジョン

02 福山城周辺エリア

AREA VISION 歴史・文化資源を活用した日常使いの憩いの場

エリアイメージ

- 福山城へと人々をいざなう駅北側の玄関口
- 福山城やふくやま美術館を始めとした歴史・文化・芸術が融合するエリア
- 福山城が見えるまち並みと福山城からの良好な眺望が保全されたエリア

取組の方向性

- ✓ 福山駅を訪れた人々に福山城の中に駅があるような印象を与える。
- ✓ 駅北口スクエアや福山城周辺道路の整備などを行い、福山城の姿を望みながら、駅から城へとつながる回遊動線を生む。
- ✓ 2022年の福山城築城400年を節目として、福山城周辺エリアが有する歴史・文化・景観などを積極的に保存・発信する。
- ✓ 福山城公園などの公共空間の活用に向けて、周辺の公共施設・空間の再生と合わせて検討を行い、市民が日常的・非日常的に利用できる空間を形成する。

エリアマップ

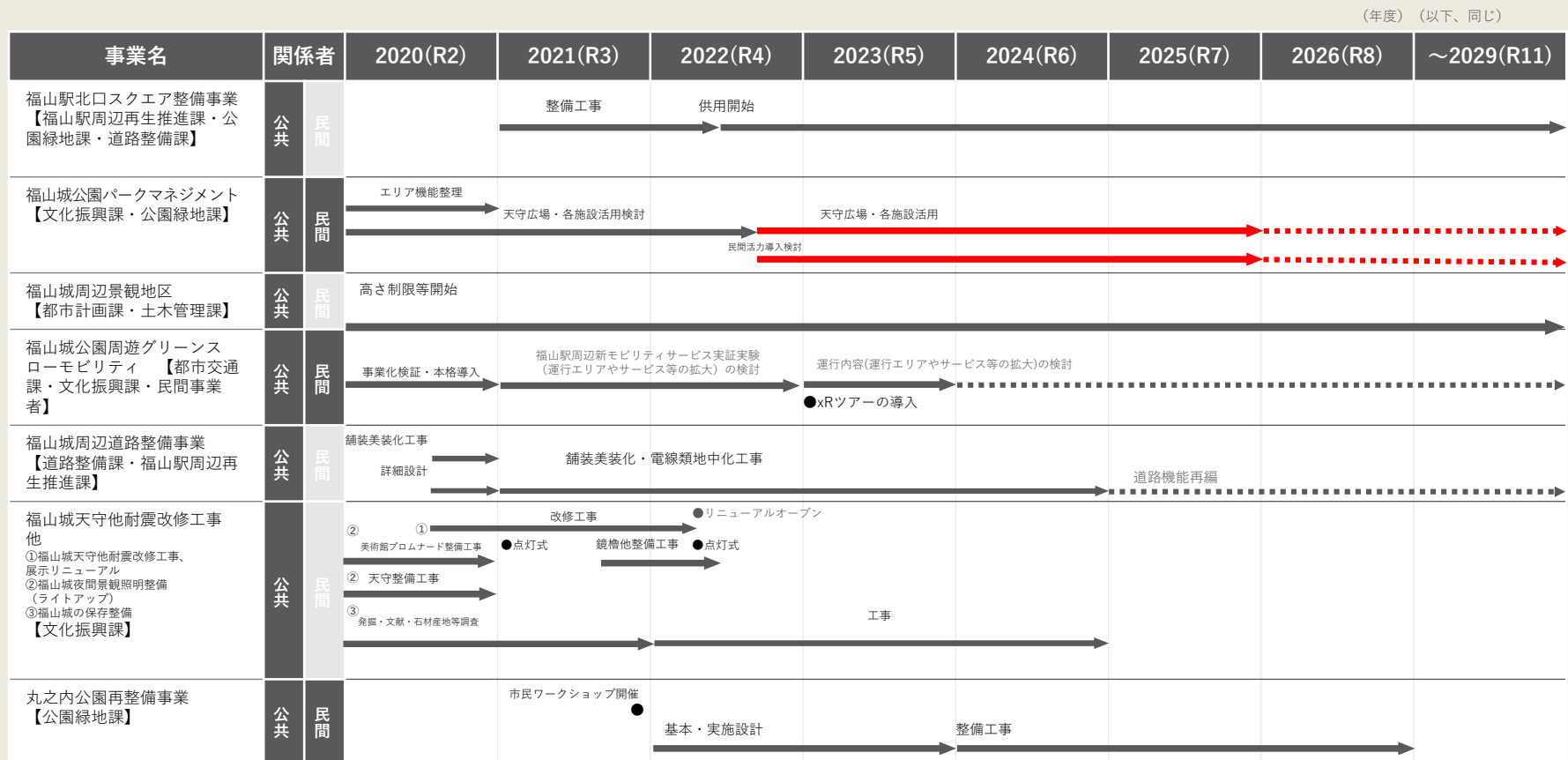


図表13 福山城周辺エリアマップ

02 福山駅周辺エリア

AREA VISION 歴史・文化資源を活用した日常使いの憩いの場

関連事業のロードマップ



※各事業の内容は、今後変更となる可能性があります。
 ※駅北口広場整備事業のあり方については引き続き検討します。

図表14 福山城周辺エリアのロードマップ

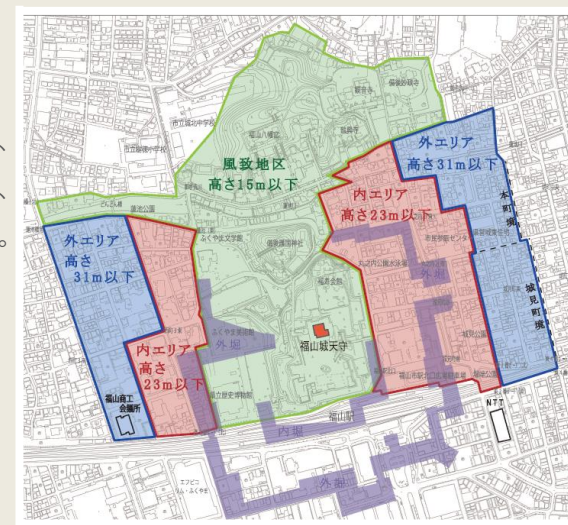
福山駅北口スクエア整備事業

福山城へと人々をいざなう駅北側の玄関口として、芝生広場や福山城の景観と調和するばら花壇を整備するほか、車道と広場との段差を解消することで、イベント時などでも利用しやすい空間となり、にぎわいの創出や回遊性の向上を促す。



福山城周辺景観地区（内エリア・外エリア）

福山城が将来にわたり本市のシンボルとして、まちづくりの中心であり続けられるよう、福山城周辺の建築物や工作物、広告物の高さ制限などを行う。



図表15 対象地区
出典：福山市景観計画（P76）

福山城公園パークマネジメント

福山城公園の新たな活用に向けて、エリアごとの機能整理、各施設の活用及び公募設置管理制度（Park-PFI※7）などの導入に向けて検討を行う。



福山城公園周遊グリーンスローモビリティ

グリーンスローモビリティを活用することにより、高齢者や障がい者など、誰もが福山城や周辺の文化観光施設などへ行きやすい環境の整備を行う。



図表16 走行ルート



福山城周辺道路整備事業

福山城周辺の道路について舗装美化化、電線類地中化の実施や歩行者優先化に向けた検討を行うことで、福山城周辺において景観に配慮した歩きやすい歩行空間を創出し、駅北側の歩行者の回遊性を高めることをめざす。

舗装美化化

福山城の東側道路、駅北口広場の北側道路において、周辺の景観に配慮した舗装の美化化を実施する。

電線類地中化

駅北口広場の北側道路において電線類地中化を実施する。

道路機能再編

福山城の南側道路の歩行者優先化に向けた検討を引き続き行う。

福山城天守他耐震改修工事 他

福山城天守他耐震改修工事、展示リニューアル

耐震性能を向上させる改修工事に合わせてバリアフリー施設を整備し、来館者の安全確保と利便性を向上させる。同時に展示内容をリニューアルすることにより、多くの市民や観光客に親しまれる天守として福山の魅力発信を行う。また、月見櫓などの施設の新たな利活用について、専門家などに意見を聴く中で、さらに多くの方々が福山城などを活用したにぎわいの創出ができるよう検討する。



福山城夜間景観照明整備（ライトアップ）

照明デザイナー石井幹子さん監修によるライトアップを整備し、福山城を核とした魅力ある夜間景観及び夜のにぎわいを創出し、福山城及び周辺エリアの魅力を高める。



福山城の保存整備

史跡福山城跡の保存整備基本計画及び整備基本計画に基づいた整備事業を実施する。

丸之内公園再整備事業

丸之内公園を再整備することにより、福山城周辺エリアに訪れる人の憩いと交流の場を提供する。

03 伏見町周辺エリア

AREA VISION 地域の個性が詰まった魅力発信の拠点

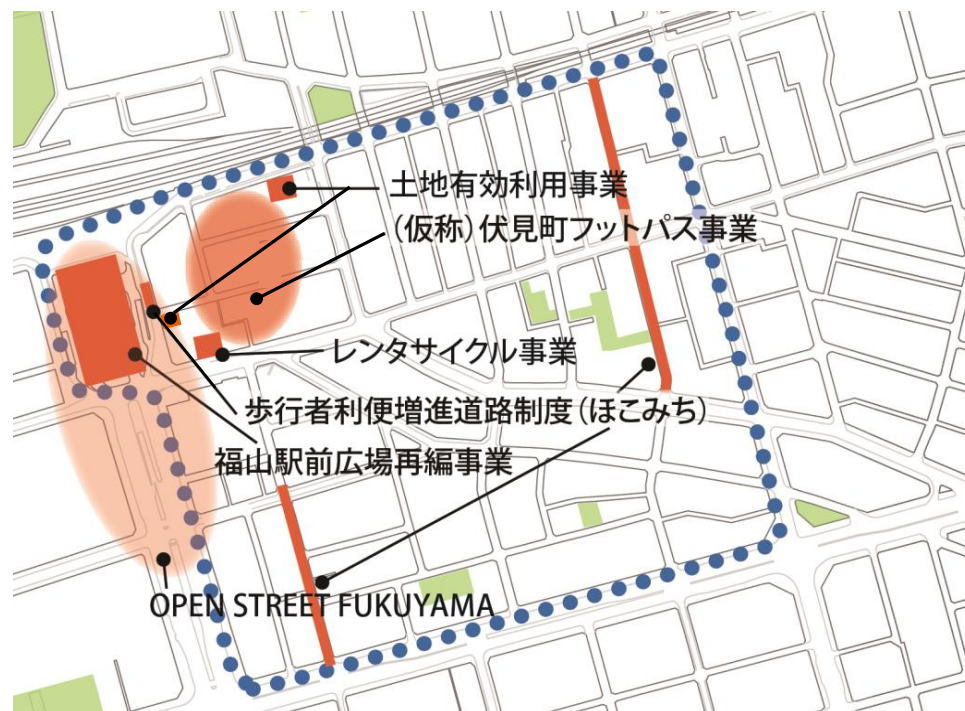
エリアイメージ

- せとうちツーリズムなど広域エリアからの玄関口
- 福山の史跡や福山の過去のまちなみを体感できるエリア
- 地元の優れた素材や魅力的な人材などが集積し、発信するエリア

取組の方向性

- ✓ 福山駅に隣接する立地を生かし、せとうちエリアへとつなぐ拠点を形成する。
- ✓ リノベーションまちづくりを継続し、新しい業態の店舗（せとうちサイクリングツーリズム、人や食を通して福山の魅力と出会えるシェアキッチン、アートギャラリー、地元の食材・製品などに触れることができるマルシェなど）とまちの歴史を引き継ぐ既存店舗が混在する路面階を形成する。
- ✓ 2階から上の階は「まち宿^{※8}」化したり、地場産業のクリエイティブオフィスとして活用するなど多様な人材の出会い・交流が生まれるエリアに変える。
- ✓ 複数の敷地・建物の共同建替えの際に、路面階の店舗化と路地空間を作り出すための誘導を行いつつ、駅前にふさわしい機能を集積する。
- ✓ 駐車場機能を集約するなど、歩きやすい歩行者中心の通りを形成する。
- ✓ エリア価値の高まりや地権者の機運を踏まえ、街区ごとなどで勉強会を行い、小規模な共同建替えを含めた新たな段階の取組について検討する。
- ✓ 福山駅前広場再編事業と連動して、ターミナル機能の整備や福山駅前広場と道路空間を活用したにぎわいの創出など、エリアの活用方法を検討する。
- ✓ ほこみち制度の活用によるデニム屋台の設置など、道路空間を積極的に活用し、エリアの活性化や魅力の向上を図る。

エリアマップ



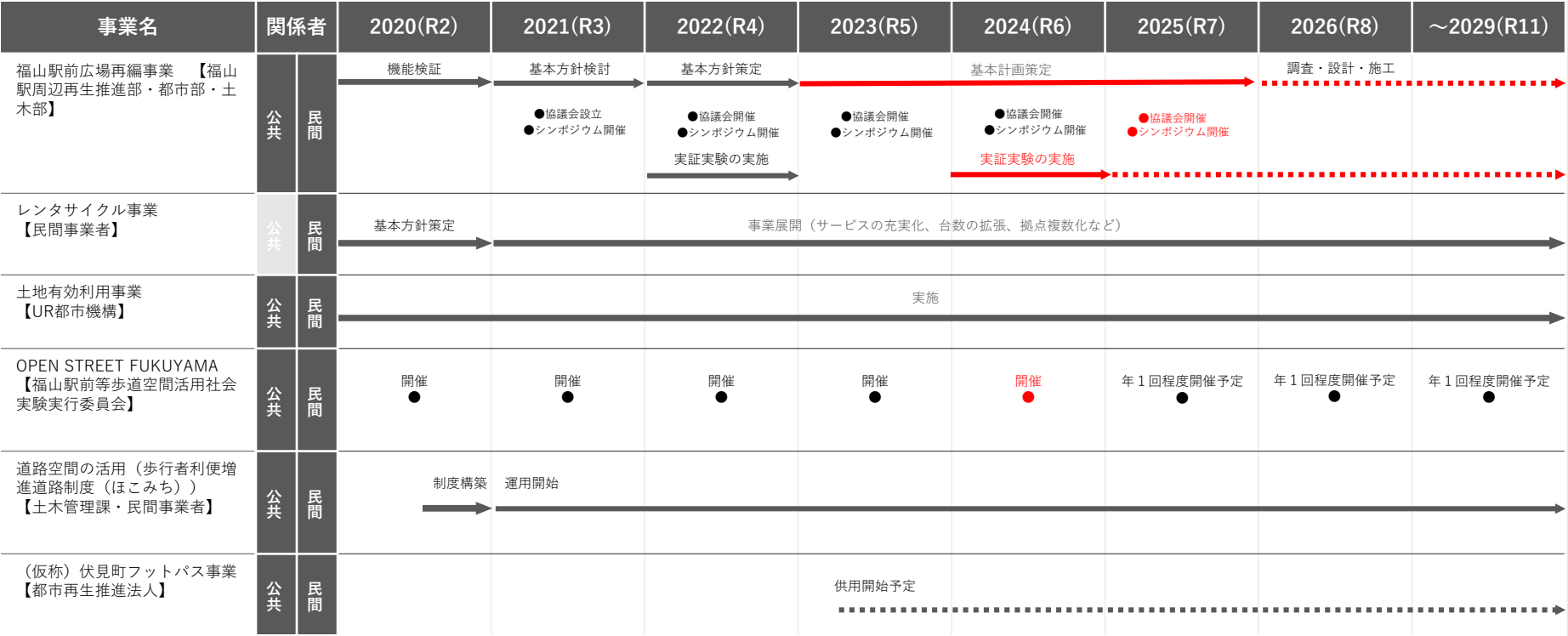
※歩行者利便増進道路制度（ほこみち）は、指定区間を示しています。

図表17 伏見町周辺エリアマップ

03 伏見町周辺エリア

AREA VISION 地域の個性が詰まった魅力発信の拠点

関連事業のロードマップ



※各事業の内容は、今後変更となる可能性があります。

図表18 伏見町周辺エリアのロードマップ

福山駅前広場再編事業

駅周辺を経済の好循環を生み出すハブ機能を備えたウォークアブルな空間に転換するため、その核となる駅前広場を交通結節機能と都市の広場機能が融合する広場に変えることで、駅周辺への人の流れを生み出し、良質な民間投資を呼び込める魅力とにぎわいのある空間をめざす。

福山駅前広場整備基本方針

駅前広場の再編の理念と計画・整備に係る基本的な方針（課題解決の方向性・将来像・計画の考え方・各機能の配置計画）を示すもの。様々な立場の人々が理念や方針を共有し、『まちを良くする視点』を持って、連携しながら行動することによって、駅前広場を交通結節機能と都市の広場機能が融合した居心地が良く歩きたくなる空間へと転換する。

課題解決の方向性

次の6つの課題解決の方向性に沿って、駅前広場整備の計画を検討する。

- ①歩行者と車両が安全で快適に移動できる環境整備
- ②多様な人々と活動を受け入れる居心地の良い空間の創出
- ③福山ならではの特徴や魅力を生かした空間の形成
- ④技術の進化や交通需要の変化、多様な利活用を見据えた可変性の確保
- ⑤多様な主体が活用しやすい広場の運営
- ⑥多様な情報が集積し、情報の発信や交換ができる環境整備

福山駅前広場の将来像

「駅前広場の課題解決の方向性」とデザイン計画に基づく「福山駅周辺の再生がめざすもの」を踏まえ、福山駅前広場の将来像を次のとおり掲げ、その実現に向けて取り組む。

あらゆる資源をつなぎ、福山らしい豊かな暮らしを実現する駅前広場
～ヒト・モノ・カネ・情報・交通をつなげ、愛着・誇り・魅力ある駅前広場へ～

福山駅前広場整備基本計画（検討中）

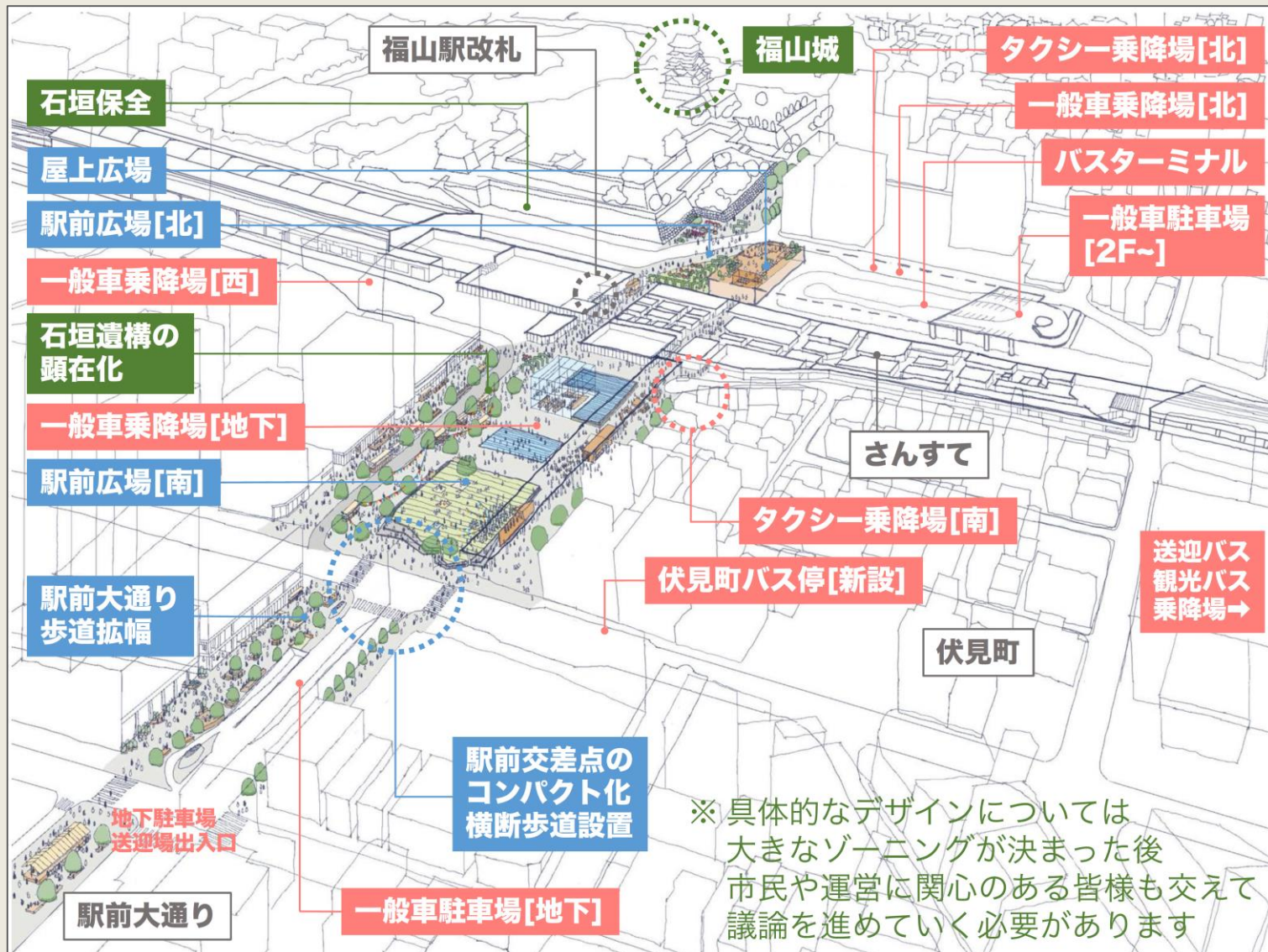
福山駅前広場整備基本方針を踏まえ、遺構を生かした空間づくりやバス・タクシーなどの施設配置について検討を進めています。これまでの議論を踏まえて、駅前広場周辺における将来イメージや交通施設配置のたたき台を示しています。今後、市民や事業者の皆さんの意見を聴きながら、丁寧な議論を行っていきます。



福山駅前広場協議会の様子

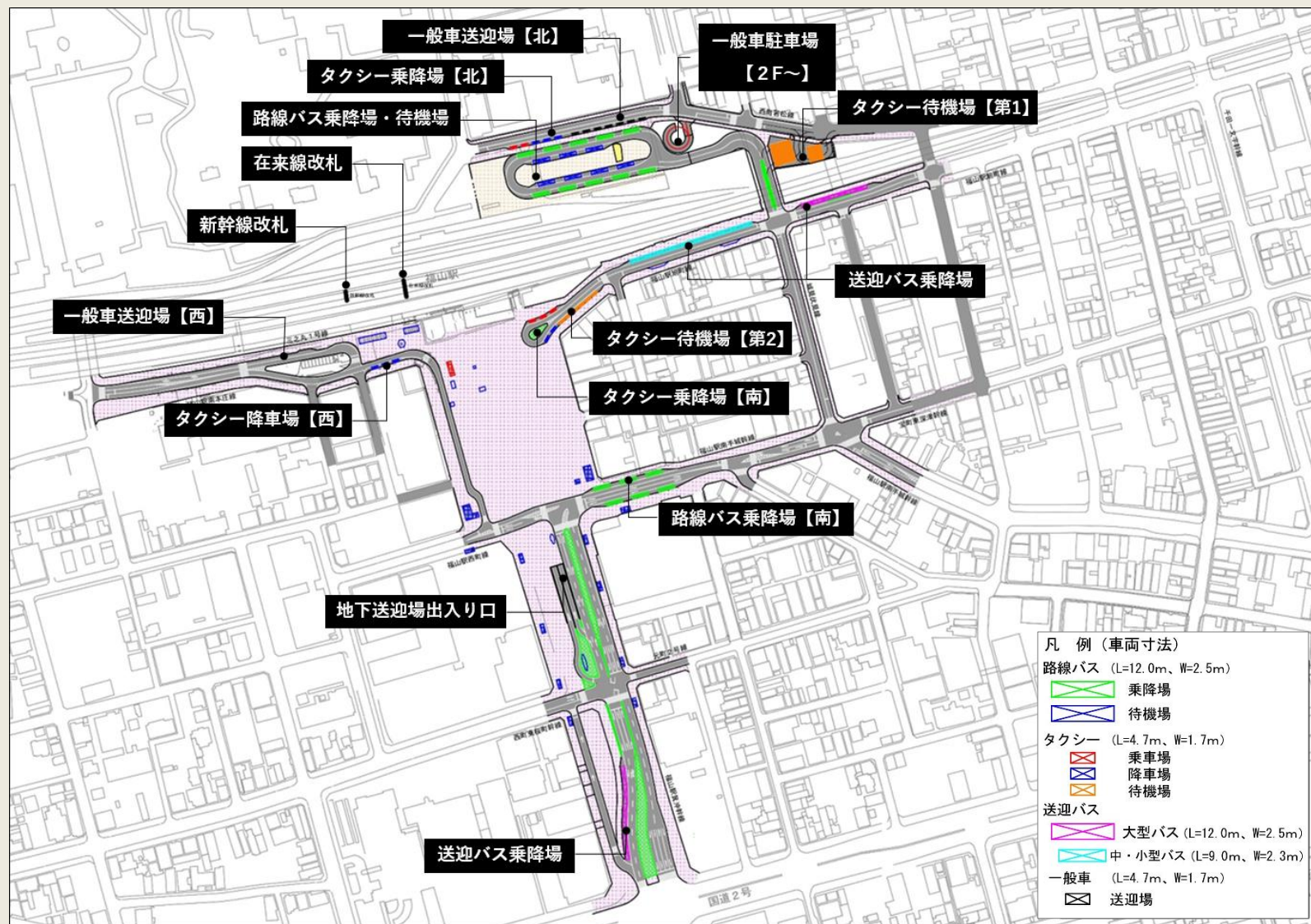
将来イメージ（たたき台）

今後、市民、事業者の皆さんの意見を聴きながら検討を行っていきます。



交通施設の配置（たたき台）

今後、市民、事業者の皆さんの意見を聴きながら検討を行っていきます。



これまでの意見についての考え方や対応案

なぜ、駅前に広場が必要なのか。広場は北口でも良いのではないか。

駅前広場が単に通り過ぎる場となっており、ポテンシャルを発揮できていないため、駅前広場を居心地の良い空間にすることで、にぎわいから生まれる経済の好循環を創出します

- ・ 国においては、2021年（令和3年）9月に駅まちデザインの手引きを作成し、「交通結節点が、魅力あるまちづくりの支障となるような事象が生じている。そのため、駅・駅前広場・周辺市街地を一体的に将来の魅力的なまちづくりの中核を担う場所ととらえて、そのポテンシャルを最大限効果的に発揮できるようデザインすることが求められる」という考えを打ち出しています。
- ・ 各都市では、駅前広場の再整備に取り組んでおり、福井市、姫路市、日向市などで、歩行者自転車通行量・イベント数・集客数の増加、周辺商業地の地価上昇、商業床の増加、公共交通利用者の増加などの効果が現れています。
- ・ 本市においても、約38,000人/日が利用する福山駅の駅前広場を多様な使い方ができる居心地の良い空間（ウォーカブルな空間）に変えることで、上記のような効果を狙っています。
- ・ 2020年（令和2年）12月に無作為抽出4,000人に行った市民アンケートでは、現在の駅前広場の環境空間に対する評価は、十分・やや十分が約10%、不十分・やや不十分が約50%でした。

なぜ、バスターミナルを北口に配置する必要があるのか。北口にバスターミナルを建てると、景観への影響が懸念される。

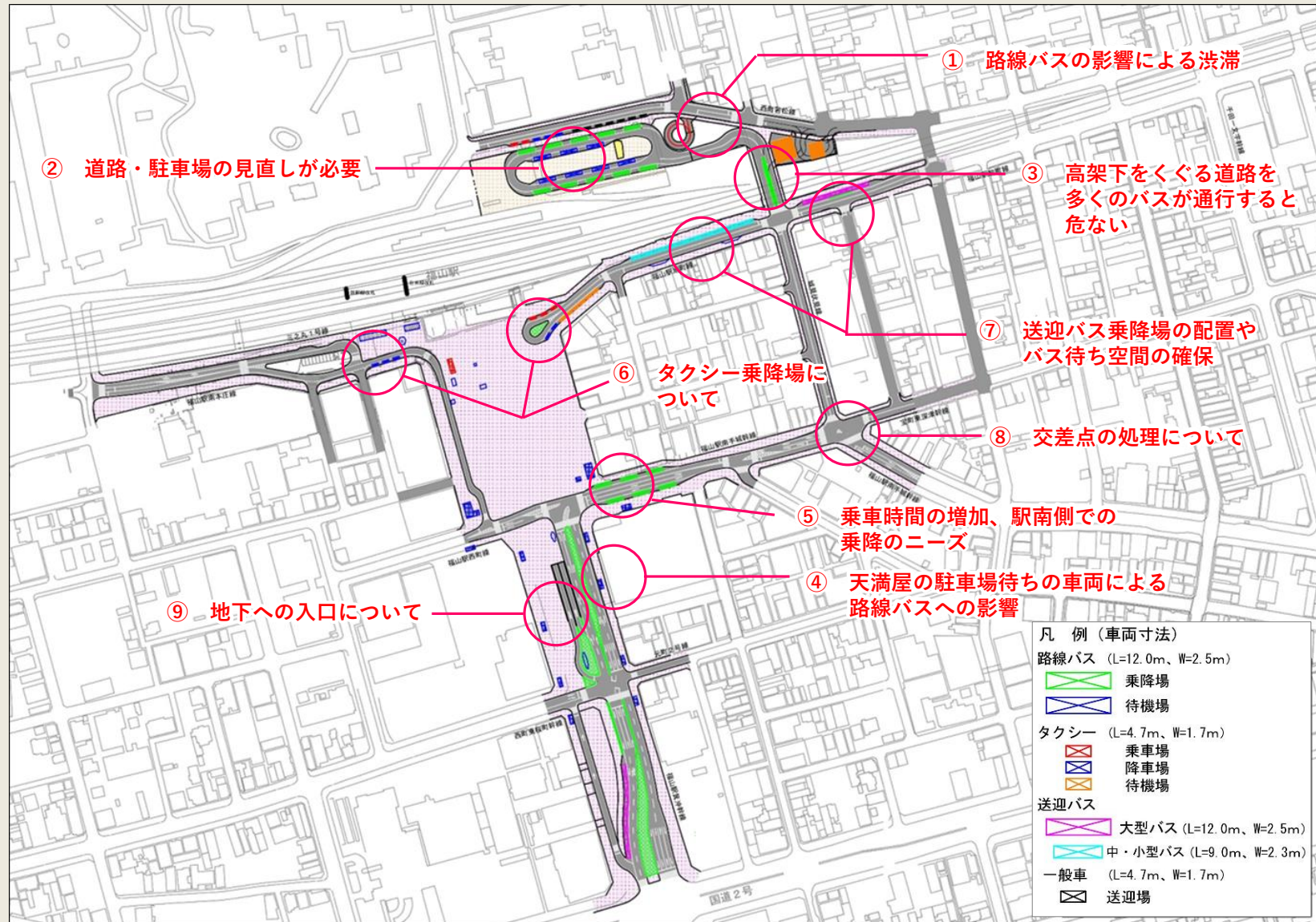
駅南側の広場再編と交通結節機能の確保のために、北口にバスターミナルを配置することを検討しています

- ・ 限られた駅周辺の空間の中で、市が保有する土地を有効活用し、駅南側の広場再編と交通結節機能の確保のために、駅により近くなる北口にバスターミナルを配置することを検討しています。
- ・ 南側にもバス乗降場を配置することで、利用者が南北の乗降場所を選択できるように検討しています。

景観に配慮した計画とします

- ・ 建物を高さ制限内（23m以下）とし、周辺の空間に圧迫感を与えないよう外観にも配慮します。
- ・ お城を見る景観とお城から見える景観の両方を大事にし、屋上には城が見えるテラスを設け、福山の新たな魅力を創出することを検討しています。

交通施設配置への意見については、次ページ以降に対応案を示しています。



① 北口をバスターミナルにするということは、北口の渋滞を引き起こすということにはならないか。

一般車と通行を分離することを検討します

- ・ バス専用のルート进行、一般車と通行を分離することで、バスが北側の道路に出ることはないため、路線バスによる北口の渋滞への影響はないと考えています。
- ・ ただし、そのためにはさんすて福山の一部解体が必要となることから、JRと検討を行っています。
- ・ また、現在の北口広場周辺道路については、駅への送迎や駐車で混雑が生じることがあるため、それも今回の整備で駐車場を拡張するなど解消していくことを検討しています。

② 北口の渋滞を起こさず、スムーズな周辺交通と快適なウォークアブル空間を実現させるためには、道路・駐車場等の見直しが必要になる。

バス専用のルートを確保し、一般車と通行の分離を検討しています

鉄道への乗換えや送迎しやすい駐車場の整備を検討しています

渋滞を生じさせない交通規制や交差点改良を検討しています

- ・ さんすて福山の一部解体により、バス専用のルートを確保することで、一般車と通行を分離し、互いに干渉させないように検討しています。バスが安全に走行でき、かつ、定時性の確保にもつながると考えています。
- ・ バスターミナルの上階に一定時間無料で駐車できる駐車場の整備を検討しています。
- ・ 渋滞を生じさせない交通規制（信号制御や駐車場への右折進入禁止など）や交差点改良（出入りしやすい隅切りの整備など）を検討していきます。

③ 高架下をくぐる道路を多くのバスが行き来すると危ない。

安全性はしっかり確保するよう検討しています

- ・ 高架下をくぐる道路をバス・タクシー専用とすることにより、交通量の減少を図ります。
- ・ それに伴い、南側の道路も交通量が減少すると考えています。
- ・ 更に、東1番ガード(南)交差点の改良により、安全性の向上を図ります（見通し確保・乱横断防止）。

- ④ 天満屋の駐車場に車が並んで、天満屋の北側の道路が渋滞することがある。天満屋北側にバス停をつくと停車できないことがあるのではないか。

路線バスに影響がでない道路計画を検討します

- 天満屋の西側に停車帯を設けることで、駐車場入口から福山駅前交差点までの間に車が停車しても後続車に影響が出ない道路計画を検討します。
- 後続車が追い越しできるように歩道に切り込みを入れ、車線から外れたところにバス停を設けることを検討しています。路線バスが乗り場から車線に合流しやすい路面標示を検討します。

天満屋北側に渋滞が生じない運用を検討します

- 駐車場の管理者と連携して、天満屋北側に駐車場待ちの車両による渋滞が生じない運用を検討します。

- ⑤ バス利用者の多くは目的地が南方面のため、利便性の観点からも南側を希望するのではないか。路線バスの乗車時間が増える。

バス停を南側にも配置することを検討しています

利用者が南北の乗降場所を選択できるようになります

- 鉄道利用者などは北側を利用し、南側に用事がある利用者は南側を利用することができます。

- ⑥ タクシー乗降場は駅から近く、分かりやすくしてもらいたい

駅南側のタクシー乗り場は、現在の位置から大きく移動しないよう検討しています

また、南から来たタクシーが駅の近くで乗客を降ろせるよう、西側にも降車場の配置を検討しています

- ⑦ 送迎バス乗降場は駅から近く、分かりやすくしてもらいたい。バスを待つ人と歩行者・自転車との交錯が必要。

乗降場を駅の近くに配置することを検討します

- 配置場所は、さんすて福山や駐輪場の南側を検討しています。

歩道の拡幅をするとともに、バス待ち空間の確保を検討します

- さんすて福山の南側の歩道を拡幅するとともに、駐輪場内にバス待ち空間を確保することで、交錯リスクを低減することを検討しています。

⑧ バスが曲がれるのか、交差点が混雑するのではないか。

信号制御を変えることで、現状でバスの右左折は可能です

また推定される交通量に基づく需要率から、交通処理は可能と考えています

走行のしやすさを向上させるために、右折レーンを確保するなど道路拡幅を検討します

⑨ 地下への入口は左右逆になっている。分かりづらい。

分かりやすく・間違えにくい通路にすることを検討しています

- 車路の中央に目隠し板をつけるなどの対応を検討しています。下りの一方通行道路と上りの一方通行道路として運用を検討します。南側からの誤進入の対策も行います。

今後、さらに市民、事業者の皆さんの意見を聞きながら検討を行っていきます。

レンタサイクル事業

駅前と鞆の浦などの周辺エリアをつなぐツールとして自転車に着目し、駅前においてスポーツ電動自転車（e-bike）のレンタル事業を展開する。サイクリングを通した市民のQOL※⁹向上と「しおまち海道サイクリングロード」の楽しみ方を示しつつ、生活に自転車を取り入れた瀬戸内らしいライフスタイルの模索と、駅前と周辺各エリアのつながりを深化させて地域の相互発展を促す。

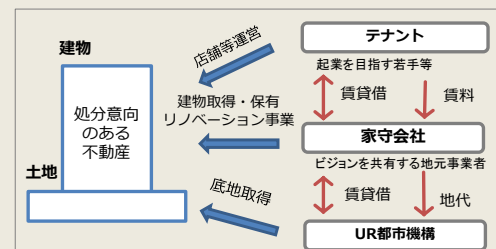


一般社団法人せとうちPEDAL Lifeより提供



土地有効利用事業（UR都市機構）

駅前再生の実現に向けて、土地の取得、長期保有により老朽化建物・低未利用地の利活用を促し、にぎわい創出、居心地が良く歩きたくなるまちの形成を支援することで、エリア価値の向上を図る。



図表19 土地有効利用事業を活用した暫定スキームの例
UR都市機構より提供

UR都市機構によるコーディネート（伏見町周辺エリアでの取組）

UR都市機構の持つ事業経験・ノウハウをベースに、公的機関としての中立公平性及び調整能力を生かし、市街地整備改善に必要な調査、調整および技術の提供を行う。



UR都市機構より提供

（仮称）伏見町フットパス事業

伏見町内の市が管理する路地などを整備し、路地裏ならではの魅力を創り出す事業を行う。

整備予定の
路地等



図表20 （仮称）伏見町フットパス事業

04 三之丸町周辺エリア

AREA VISION 職住混在のスマートでクリエイティブなオフィス街

エリアイメージ

- 広域性と拠点性を備えた高次都市機能※¹⁰が集積した備後圏域の玄関口
- 路面階の店舗がまちに開かれ、店舗と道路と三之丸公園がつながる良質な歩行空間のあるエリア
- 多様な人の交流による新しいシゴトを創出するエリア

取組の方向性

- ✓ 三之丸町地区優良建築物等整備事業において、まちの風と光と人の流れを取り込めるよう、外部に面する店舗に開放性の高い開口部を設ける。
また、敷地内に24時間通行可能な公共用通路を整備し、周辺エリアとの回遊性を生み出す。
- ✓ 駅からNEW CASPA、エフピコRiMへとつながる通りの店舗や道路、三之丸公園の一体的な活用により、歩いて楽しい歩行空間を形成する。
- ✓ 「福山の未来を育てる」「人と人、人とまちのつながり」を基本コンセプトとし、エリア価値を高め、周辺地域や市域全体の発展につながるコンテンツをエフピコRiMに集積させることでエリア全体の再生をめざす。
- ✓ 福山駅前広場再編事業と連動して、ターミナル機能の整備や広場と道路空間を活用したにぎわいの創出など、エリアの活用方法を検討する。
- ✓ 東桜町緑地や福山駅前広場再編事業によって生まれる広場空間を活用した良質な歩行空間の形成と回遊性の向上をめざす。
- ✓ 三之丸町周辺エリアプロモーションプロジェクト「Wander SANNOMARU」により、それぞれの事業がつながり、エリアのにぎわいの日常化をめざす。

エリアマップ



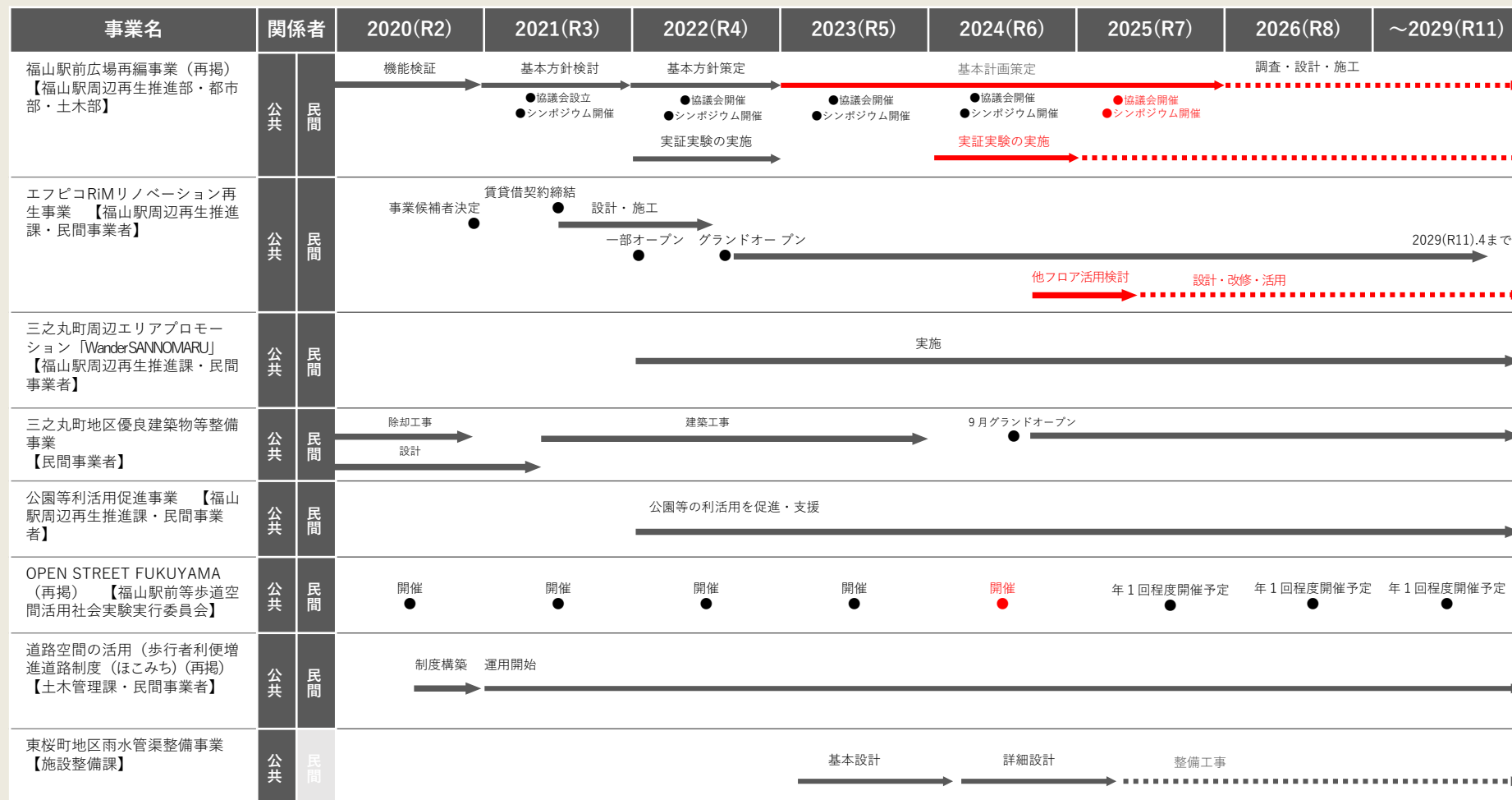
※歩行者利便増進道路制度（ほこみち）は、指定区間を示しています。

図表21 三之丸町周辺エリアマップ

04 三之丸町周辺エリア

AREA VISION 職住混在のスマートでクリエイティブなオフィス街

関連事業のロードマップ



※各事業の内容は、今後変更となる可能性があります。

図表22 三之丸町周辺エリアのロードマップ

エフピコRiMリノベーション再生事業

商業機能にとらわれない新しい発想のもと、官民がそれぞれ投資を行い、連携しながらエリア価値を高め、市民の豊かな日常生活の実現をめざすもの。さらに、周辺の道路、公園等の公共空間や店舗などとの連携により、本事業の効果を周辺のエリアにまで波及させ、福山駅周辺にさらなる良質な民間投資を呼び込み、ひいては市域全体や備後圏域の発展につなげていくことをめざす。

コンテンツのコンセプト

「福山の未来を育てる」

子どもや若者がこの場で学びその後様々な場所や分野で活躍することで地域を支えていくことがエフピコRiMの担う新しい役割の一つ。

また、将来の福山や備後圏域を支える新たな産業 や QOL※6を高める新しいライフスタイル を生み出すためのチャレンジの場として再生することをめざす。

空間のコンセプト

「人と人、人とまちのつながり」

建物内のにぎわいが周辺の道路や公園、店舗にも波及し、周辺のエリアの再生につなげていくことをめざす。

また、建物内には多様な目的を持った人たちが留まることができる広場を設け、誰でも利用でき、多様なアクティビティが誘発される居心地のよい公園のような空間づくりを期待する。



エフピコRiM（本館）の外観写真



iti SETOUCHI（本館1階施設）の写真

2025年、iti SETOUCHIがスタートして2年が経過 現在の姿と5年目の中間期に向けたマイルストーン

地域社会の潜在的なニーズを集めて可視化し、まちをつくる人を増やす

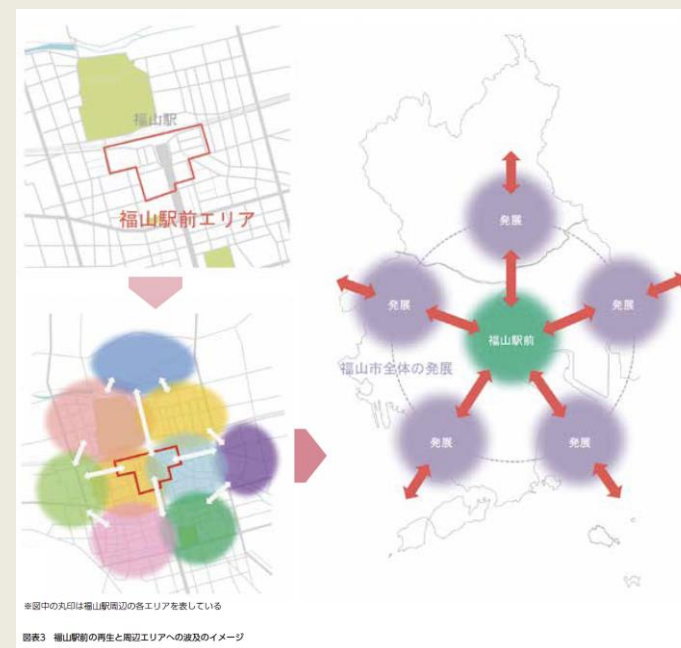
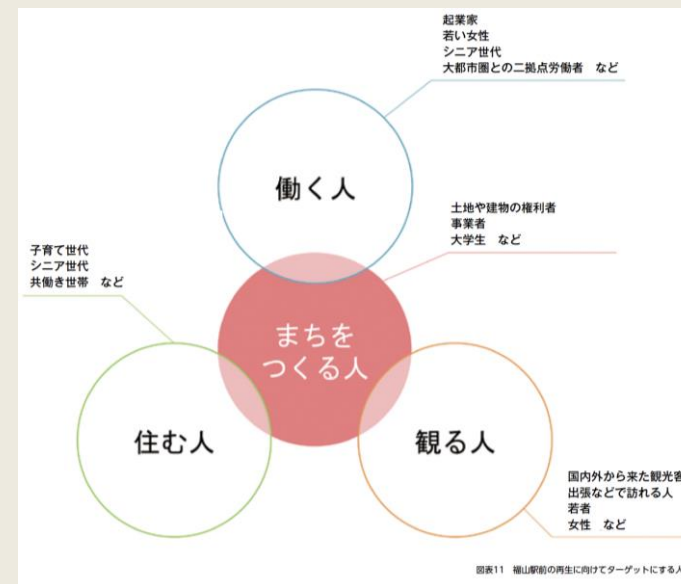
iti SETOUCHIではこれまで消費行動だけではない、新たな軸を模索し続けてきた。この約2年間、地域の声に耳を傾け、あらゆる挑戦に寄り添ってきた結果、施設利用が増加している。例えば右図（福山駅前再生ビジョンより抜粋）のように、＜働く人＞仕事・勉強・学ぶ場所として、＜観る人＞アート・展示会・作品発表の場として、＜住む人＞余暇や買い物・仕事帰りの中継地点として、あらゆる世代・多様な目的の利用者が、開業時の想定を超える場所としてのポテンシャルを発揮している。今後も意識的にまちをつくる人を増やしていきたい。

まちでの活動量の増加がまちに変化の兆しをつくっていく

館内のパブリックスペースを中心に、気軽に出店などが可能な屋台（itiで制作）などの仕器を貸出し、利用者の最初の一步の後押しを積極的に支援している。運営スタッフはコミュニティマネージャーとして、利用者のやってみたい、やりたいを叶えるため、積極的にサポートを行い、アクションしやすい環境づくりと伴走支援により活動量増加に寄与している。まちに必要なもの・欲しいものを自ら生み出していく活動者が増加することで、まちは人を起点に変化しながら成熟していき、コンテンツコンセプトに掲げていたQOLを高める新しいライフスタイルを生み出すチャレンジの場として再生が実現できる。

iti SETOUCHIを起点にコンテンツを地域に広げ、周辺エリアに波及させる

開業から2年間でiti SETOUCHIでの活動量（年間約400件のイベント開催）と関係人口が増え、施設で継続し取り組んできた活動は、館を飛び出し、まちとの連続性をつくり、駅前周辺エリアの相互利用に寄与しているため、さらに周辺エリアに波及できるように努めたい。



三之丸町周辺エリアプロモーションプロジェクト「Wander SANNOMARU」

同じビジョンをもち駅前再生に取り組むエリアの民間事業者や地元団体などが、新たに始めようとしている三之丸町周辺エリアプロモーションプロジェクト「Wander SANNOMARU（ワンダーサンノマル）」は、施設プロモーションやその日限りのイベントではなく、三之丸町周辺エリアの賑わいが日常化する風景をつくること。それぞれの事業をつなぐ、街の行間となる路地やパブリックスペースでの賑わいを協力して生み、育てるプロジェクト。各事業のハレの日や、街のイベントを最大化するために連携をとり、賑わいが日常化することをビジョンにもち活動していく。

ウォーカブルなまち三之丸

ワンダーとは「歩き回る、（目的・道順なしに）ぶらぶら歩く」の意味がある。三之丸町周辺エリアのストリートを歩き、回遊する楽しさ、それがまちでの出会い、交流することの楽しさにつながり、関係人口・交流人口の増加をめざす。

Wander SANNOMARU
ワンダーサンノマル



まちを歩こう、
未来をはじめよう

“ワンダーサンノマル”が描く線は
まちを訪れ歩く人の軌跡

人が集い、つながり、交わる
その軌跡がサンノマルを育て
未来につながる

まちを《遊び場》に
みんなの《憩いの場》に
そして《交流の場》に

さあ、まちを歩こう、
未来をはじめよう

世界 全国 瀬戸内 福山市内



福山市 / 駅前再生ビジョン

旧CASPA / 三之丸玄関口

iti SETOUCHI / 西側エリア形成

さまざまな目的が増え「福山駅前」に流入拡大



Wander SANNOMARU アクション

- ・街中サインの実施
- ・場づくり / コミュニケーションスポットの開設
- ・事業者間の情報交換
- ・事業者連携のプロジェクト・イベントなどの実施

福山駅前周辺の回遊性を高め、ウォーカブル体験を構築する

福山駅前の再開発事業を通じたエリア再生のリーディングプロジェクトとしての位置づけと役割の発信を担う。入居テナントやオフィス、マンション居住者へのプロモーションに展開し、住みたい・訪れたい街のイメージを訴求させ、エリア全体の交流人口と滞留機能を増加させていく。エリアプロモーションを通じて周辺施設や周辺事業者との連携関係の構築や各種事業の相乗効果が生まれ、来街者の増加などによってエリアの価値が高まっていく。

訪れたいまち「福山駅前」の醸成をめざす

図表23 今後のエリアプロモーションビジョン



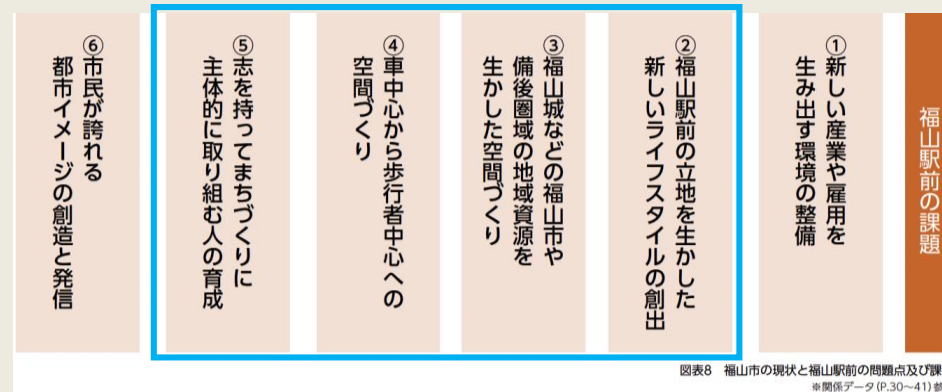
三之丸町周辺エリアプロモーションプロジェクト「Wander SANNOMARU」

(今後の展開予定)

2年間の運営で蓄積された iti SETOUCHIのノウハウを周辺エリアに展開

Wander SANNOMARUを活用した連携イベントの実施

プロジェクトの認知向上とさらなる活動を促進していくため、
エリア内に拠点を持つ、iti SETOUCHIとNEW CASPAなど、まちの行間をつなぐ、駅前周辺エ
リア内の回遊を促し、まちの事業者など活動するひとを紹介するイベントを構築する。
認知と活動の定着までは、little wonder department や OPEN STREET FUKUYAMAなど、
継続開催している既存のイベントと連携し、集客・認知・活動理解の向上をめざす。



Wander SANNOMARUを活用し、
駅前の課題解決の入り口をつくる

福山駅前再生ビジョン資料より



歩いて楽しむ、エリア内の回遊性を高める



地域産業を感じる空間づくり



施設からまち中へ、コンテンツがまちへと連続性を生み出す



三之丸町地区優良建築物等整備事業

三之丸町地区（旧キャスパ等跡地）において、官民が連携して、福山市の玄関口にふさわしい魅力とにぎわいの創出を図り、駅周辺のエリア価値を向上させる。

歩いて楽しい空間づくりの観点から、敷地内に公共用通路を整備し、駅から三之丸町や西町への回遊性を生み出す。

2024年3月竣工。

2024年9月商業施設「NEWCASPA」グランドオープン。

事業の特徴

① 地域の顔となる施設づくり

独立した3棟の2階部分をデッキで繋げ、施設内の回遊性を高めるほか、床仕上げ材を統一することで一体感を醸成し、歩道や駅前広場とシームレスにつなげる。

② 福山ならではの価値の発信

1、2階の商業施設「NEWCASPA」には、福山市や備後圏域の自然や産業などの地域資源の魅力を発信し、地域のとの交流を促進する取組を目指す店舗が揃う。

③ 三之丸町周辺エリア全体の活性化

敷地内の共用通路や広場を活用してにぎわいの創出を図り、iti-SETOUCHI（エフピコRiM 1階）や周辺の店舗などと連携することにより、エリア全体の活性化に寄与する。




NEWCASPA

人と人、人と街、人と持続可能な成長を。

COMMUNITY	みんなが集まり
ACTIVE	元気に活動し
SUSTAINABLE	持続可能な
PUBLIC	誰もが参加できる
ASSOCIATE	仲間をつくる



OPEN STREET FUKUYAMA

福山市の中心である福山駅前のにぎわい創出、回遊性向上に向けた歩道空間を活用した社会実験。「ミチ」をきっかけにした楽しい「マチ」づくりに向け、新たな居場所づくりとして屋外カフェの常設や定期的なマーケット開催の実験を実施する。



歩行者利便増進道路制度（ほこみち）※11

歩道等の中に歩行者の利便増進を図る空間を創出し、道路空間をより柔軟に活用できるようにすることで、民間事業者による道路空間の活用を促進する。



歩道を活用したオープンテラス（福山駅前商店会）

東桜町地区雨水管渠整備事業

今後、人口の集中も予想される東桜町地区において、大雨の際に発生する浸水被害軽減に向け、雨水幹線へのバイパス管を整備する。

公共空間の新たな活用

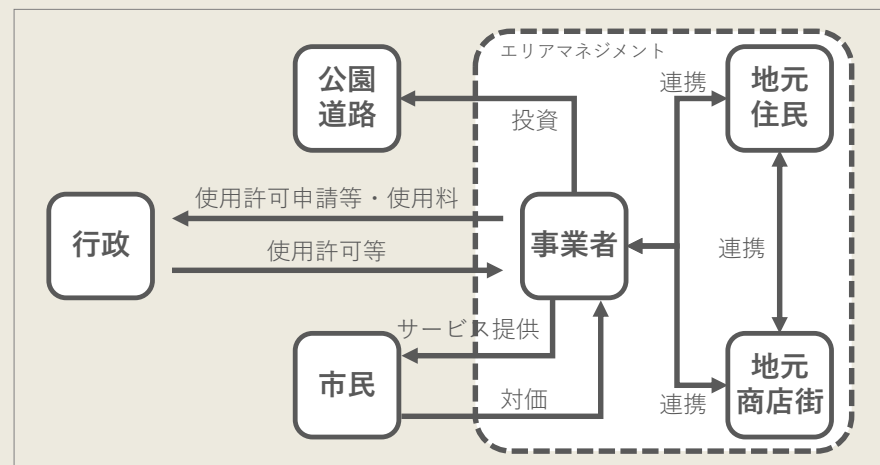
道路や公園などの公共空間を人を中心とした多様な活動が行われる空間に転換することで、人と人が出会い・交流できるウォークアブルなまちの実現を図るとともに、公共空間の活用によって得られる利益をまちに再投資する仕組みづくりを促す。

公園等利活用促進事業（三之丸町周辺エリアでの取組）

人の豊かな生活にとって重要な公園を活用し、駅周辺のエリア価値を高める。さらに、公園の運営を通し、公共空間を活用して利益を生み出す仕組みづくりや自立したエリアマネジメントを行う組織体の創起を促す。



公園の風景（三之丸公園）



図表24 道路や公園の活用を通じたエリアマネジメントの仕組み（イメージ）

05 中央公園周辺エリア

AREA VISION 多様な知識や文化が融合する学びの拠点

エリアイメージ

- 中央公園の緑の空間が育む豊かな日常風景のあるエリア
- 中央図書館が持つ学びと活動を通した多世代の交流拠点
- 中央公園と中央図書館からにじみ出る居心地の良さとにぎわいが感じられる通り

取組の方向性

- ✓ 中央公園Park-PFI事業により、地域の商店街などと連携し、子どもから大人までが学び、活動する場として、日常の暮らしをより豊かにする公園を形成する。
- ✓ 図書館をビジネスや地域課題の解決の支援などを行う人や情報の交流の場とする。
- ✓ **中央公園と中央図書館が生み出す居心地の良さと、霞通りと連携したイベントとの相乗効果により、霞通りや久松通りなどへの回遊性を生み出す。**

エリアマップ



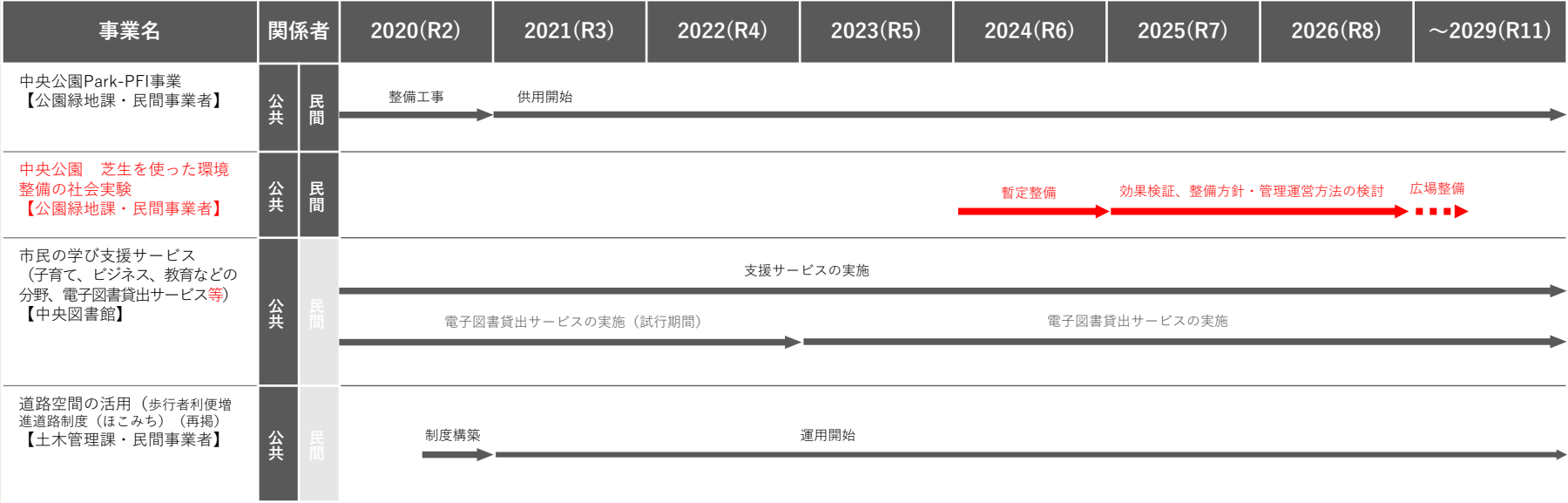
※歩行者利便増進道路制度（ほこみち）は、指定区間を示しています。

図表25 中央公園周辺エリアマップ

05 中央公園周辺エリア

AREA VISION 多様な知識や文化が融合する学びの拠点

関連事業のロードマップ



※各事業の内容は、今後変更となる可能性があります。

図表26 中央公園周辺エリアのロードマップ

中央公園Park-PFI事業

中央公園へのPark-PFI導入により、民間事業者のノウハウを活用した公園施設の設置、維持管理により、公園と図書館の利用者の利便性を向上させ、新たな公園の使い方による、にぎわいを創出する。

ガーデンレストランオープン後、中央図書館が隣接している立地を生かし、図書館と連携したイベントの開催など、新たな公園の使い方によって新しい人の流れが生まれつつある。その流れを商店街との連携を通じて、駅周辺へと波及させていくことをめざす。

ガーデンレストラン「Enlee」

2021年5月に民間事業者の投資により建設されたガーデンレストランがオープン。約50席の座席数とテラスを設け、公園の緑を楽しみながら開放された空間で飲食をすることができる。

暮らしに寄り添った市民参加型イベント「NIWASAKI」

事業者を中心に公園の利活用を推進するチームを結成。「日常の豊かさに重心を置き、暮らしをアップデートする」をコンセプトに地域を巻き込みながら様々な企画イベントを定期開催している。屋外図書コーナーの設置や図書館司書による読み聞かせなど、図書館と連携した取組も行っている。



中央公園 芝生を使った環境整備の社会実験

快適で居心地のよい芝生広場の再整備に向けて、日常の公園利用者のニーズや動線に合わせて新たにゾーニングした芝生広場を暫定的に整備し、利用状況を観察する中で、芝生の緑がもたらすリラックス効果など様々なグリーンインフラの効果を検証する。検証結果は広場全体の整備方針や官民連携による効率的な管理運営に反映させていく。



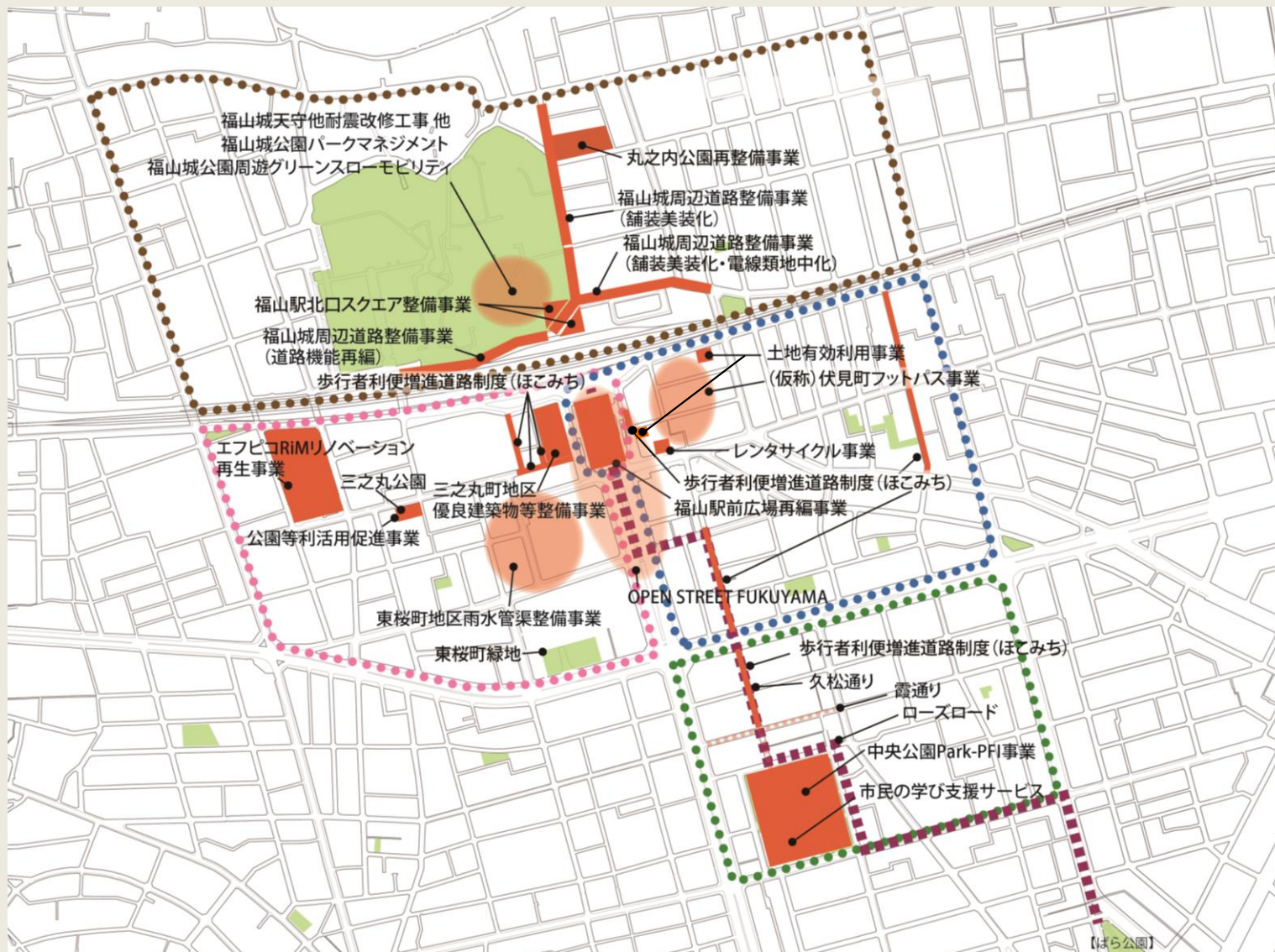
市民の学び支援サービス

市民が日常生活を豊かに送るために必要な資料や情報を提供し、学びを支援する（子育て、ビジネス、教育などの分野）。

電子図書貸出サービスやデジタルアーカイブなど知識情報のデジタル化を推進し、家庭等からいつでもアクセスできるよう、サービスの充実を図る。



06 各エリアの関連事業（全体図）



※歩行者利便増進道路制度（ほこみち）は、指定区間を示しています。

図表27 各エリアの関連事業（全体図）

07 4つのエリアに共通して行われる事業と 周辺地域と連携して行われる事業

駅周辺再生に資する事業のうち、「4つのエリアに共通して行われる事業」と「駅周辺と周辺地域が連携して行われる事業」を示します。

事業名	事業内容	関係者		2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	～2029(R11)
福山駅前広場再編事業（再掲） 【福山駅周辺再生推進部・都市部・土木部】	P.43～49参照	公共	民間	機能検証 基本方針検討 基本方針策定 基本計画策定 調査・設計・施工 ●協議会設立 ●協議会開催 ●シンポジウム開催 ●協議会開催 ●シンポジウム開催 ●協議会開催 ●シンポジウム開催 ●協議会開催 ●シンポジウム開催 実証実験の実施 実証実験の実施							
特定用途誘導地区の指定 【都市計画課】	敷地内に駐車場を設けない建築物等で、店舗や飲食店等の誘導施設を併設したものの容積率の緩和を行う区域等の指定を行う。			公共	民間	調査・検討・地区の法定手続き・効力発生					
駐車場配置適正化区域の指定 【都市計画課】	歩いて暮らせるまちの実現に向け、駐車場の配置を適正化する区域等の検討を行った結果を基に、「建築物における駐車施設の附置等に関する条例」の改正を行う。	公共	民間	調査・検討 条例改正手続き 効力発生							
屋外広告物の誘導による景観形成 【土木管理課】	街区や通り毎に屋外広告物について、地元のコンセンサスを得ながら良好な景観形成を誘導する。	公共	民間	街区や通り毎の景観形成に対する機運の醸成、誘導							
路上喫煙制限区域の指定による分煙空間の創出事業 【廃棄物対策課・健康推進課】	駅周辺における路上喫煙制限区域の指定に併せて、市民等へ周知・啓発を行い、たばこのポイ捨てや受動喫煙等を防止することで、快適に過ごせる空間を創出する。	公共	民間	調査・検討（路上喫煙制限区域・喫煙所設置場所） 協議会設立 ●喫煙所の整備(2ヵ所) ●喫煙所の整備(3ヵ所) 12月条例改正 路上喫煙制限区域の指定・周知啓発 パトロール強化							
公園等利活用促進事業（再掲） 【福山駅周辺再生推進課・民間事業者】	P.58参照	公共	民間	公園等の利活用を促進・支援							
ウォークアブル税制 【福山駅周辺再生推進課】	P.67参照	公共	民間	申請手続（期限2026.3） 特例軽減期間（最長2031年度分まで）							
リノベーションまちづくり 【福山駅周辺再生推進課・産業振興課・都市計画課】	リノベーションまちづくりを行う人材の育成と都市再生推進法人やまちづくり会社の組織づくりに向けた支援を行う。	公共	民間	・リノベーションまちづくり講習会等の開催 ・都市再生推進法人化の支援 福山駅前アクション会議、エリアプロデュース&マネジメント講座の開催 エリア価値創造フォーラムの開催 エリアマネジメントワークショップ							
福山ビジネスサポートセンターFuku-Biz事業 【産業振興課】	専門家によるビジネスコンサルを通し、売上向上・創業支援に重点を置き、事業者の「稼ぐ力」を高める。	公共	民間	経営相談							
企業誘致の推進 【企業誘致推進課】	企業動向の情報を収集し、県・市の助成制度を活用するなかで、駅前再生の推進に合わせた積極的な企業誘致活動を行う。	公共	民間	県・市の助成制度の運用							

4つのエリアに共通して行われる事業

事業名	事業内容	関係者		2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	～2029(R11)
ばらのまち福山PR活動事業 【世界バラ会議推進室】	ばらのまち福山PR大使「ニコライバグマン」監修による福山駅アートプロジェクトやローズロードの整備など、ばらのまち福山のPR活動に取り組む。	公共	民間	福山駅アートプロジェクトの実施							
多言語案内表示整備推進事業 【観光戦略課・世界バラ会議推進室】	インバウンド受入環境整備のため、世界バラ会議福山大会を見据えたローズロードを中心とする多言語案内標識等を整備する。	公共	民間		ガイドライン・整備計画策定	ローズロードへの案内サイン整備		ローズロードの路面プレート整備	●2025年5月 世界バラ会議福山大会開催		
福山駅観光案内所リニューアル 【観光戦略課】	P.67参照	公共	民間			改修工事		多言語での観光案内			
世界バラ会議福山大会を通じたレガシー創出 【世界バラ会議推進室】	世界バラ会議福山大会の開催を契機として、「ばらのまち福山」の玄関口にふさわしいばらの植栽のあり方を検討し、大会終了後も後世に残せる整備や活動など、全庁体制で取り組む。 ①ローズロード等ばらの植栽の充実 福山駅からばら公園までばらを楽しみながら歩けるよう、ばらの植栽デザイン計画を策定する。	公共	民間	対象事業の調査	各課で事業実施				●2025年5月 世界バラ会議福山大会開催		
					① 植栽デザイン計画策定	詳細設計	植栽・工事			植栽の育成・定着	
UR都市機構によるコーディネート 【UR都市機構】	P.50参照	公共	民間				実施				
福山駅周辺新モビリティサービス実証事業 【都市交通課・福山駅周辺再生推進課】	P.67参照	公共	民間	福山城周辺エリアでのグリスロ運行		グリスロ運行によるエリア内の移動支援と、店舗・施設などのサービスを連携させる新たなモビリティサービスの検証				エリア内での民間主導による事業化	
キッズコム・えほんの国の運営 【ネウボラ推進課】	キッズコムを市中心部の商業施設に移転する。「えほんの国」も同じ施設で再開し、一体的に運営することで親子が集い、絵本に親しみ、楽しめる場所を提供する。	公共	民間		開館						
災害時の帰宅困難者等への対応 【危機管理防災課】	駅周辺に滞在する住民等への情報提供や一時滞在が可能な場所の確保等に努める。	公共	民間				情報提供、一時滞在が可能な場所の確保				
MICEの推進 【観光戦略課】	P.67参照	公共	民間	福山市MICE戦略公表 福山市MICE推進協議会設立		MICEの誘致・受入			●2025年5月 世界バラ会議福山大会開催		
官民連携による情報発信 【福山駅周辺再生推進課・情報発信課・民間事業者】	P.67参照	公共	民間			●愛称決定		SNS等を活用した情報発信			

※各事業の内容は、今後変更となる可能性があります。

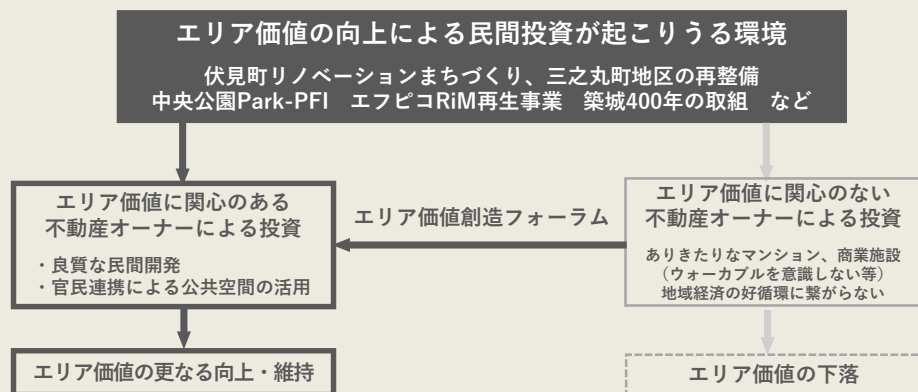
図表28 4つのエリアに共通して行われる事業

エリア価値創造フォーラム

エリア価値を向上させるためには、土地・建物などのオーナー、そこを借りて事業を展開する事業者、マンションや商業開発を行うデベロッパー、行政職員、そしてまちを使いこなす市民の方々などが、まちの課題やビジョンを共有し、共通認識を持つことが必要となります。

2022年度（令和4年度）から、エリア価値創造フォーラムを開催し、エリアの関係者が、エリアの特徴や課題に応じた新たなまちづくりの手法について理解を深める取組を始めています。

フォーラムを通じて、スモールエリアの将来像作成やイベント等の試験的な取組、ウォーカブルなまちを意識した個々のリノベーションや共同建て替えなど、エリア価値の更なる向上をめざした取組を進めてまいります。



図表29 エリア価値創造フォーラムの位置付け

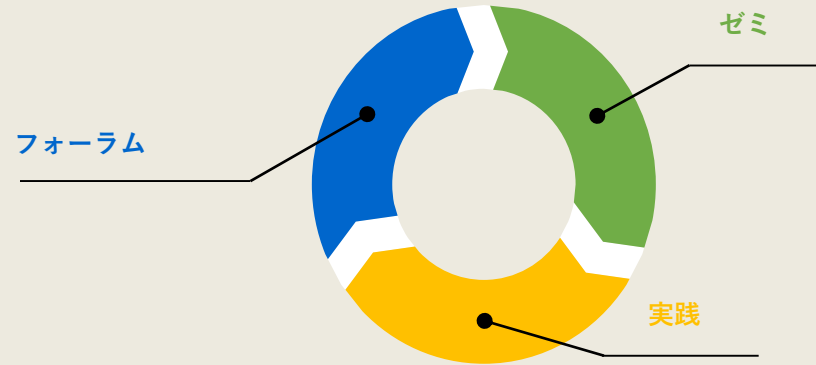


エリア価値創造フォーラムの様子

エリア価値創造ゼミ

2023年度（令和5年度）から、市内でまちづくりに関する取組を考えている方や既に取り組まれている方を対象に、ご自身の具体的な活動を考えるためのステップとして、フォーラム後に、エリア価値創造ゼミを開催しています。

フォーラムでまちづくり手法について学び、ゼミで課題の共有や参加者同士のつながりを作ることで取組の方向性などを深化させ、実践を通して出た課題を、フォーラムやゼミに繰り返し参加することで解決していく流れを作り、エリア価値の向上に効果的な取組へつなげていきます。



図表30 エリア価値創造ゼミ参加者の取組のサイクル



エリア価値創造ゼミの様子

官民連携による情報発信

駅周辺再生の取組・イベント情報などを周知し、集客の増加やまちに対する誇り・愛着の醸成、さらにはまちの印象やイメージに共感したり興味を持ったりした人や企業の流入などにつなげ、エリア価値を高める。

ウォーカブル税制

民間建物の路面階などをガラス張り・オープン化した場合などに固定資産税等を特例軽減（5年度分）することで、居心地が良く歩きたくなる空間づくりを推進する。

福山駅周辺新モビリティサービス実証事業

ウォーカブルエリアが、誰もが移動しやすく、人の交流が活発になるように、福山城公園周遊グリーンスローモビリティの運行エリアを順次拡大し、また、店舗・施設・企業などの様々なサービスと連携させる新モビリティサービス事業の実証実験を行う。

福山駅観光案内所リニューアル（2023年4月1日実施済）

福山駅観光案内所の機能充実を図り、外国人観光客や障がい者対応など、ユニバーサルデザインに配慮した誰もが安心して利用できる観光案内所にリニューアルを行い、日本政府観光局（JNTO）が認定する、外国人観光案内所「カテゴリーⅢ」に認定された。



多言語案内サインの整備

世界バラ会議福山大会をはじめインバウンドへの対応としてローズロードを中心とするエリアへ多言語案内サインの整備を行い、言語バリアフリーな移動環境を実現した。



MICEの推進

福山駅周辺エリアMICE

駅周辺に点在する文化施設や宿泊施設をつなぎ、エリアを一つの会場に見立て、市内周遊型の「エリアMICE※12」を推進する。

ユニークベニューを活用したMICE

駅周辺に点在する文化施設などを福山らしさ溢れるMICE会場として提案し、誘致活動を行う。



ユニークベニュー※13として駅周辺の文化財を活用

福山版ナイトタイムエコノミーの推進

夜間帯を含めたイベントの開催や文化施設の開館時間の延長などに関する福山版ナイトタイムエコノミーの基本方針を策定・施行し、情報を発信する。



周辺地域と連携して行われる事業

事業名	事業内容	関係者		2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	～2029(R11)	
観光プロモーション事業 【観光戦略課】	食を通じたイベントやWebプロモーション等を展開し、観光消費額の増加を目指す。来訪意欲を高める。	公共	民間	情報発信								継続の検討
外国人観光客への魅力発信事業 【観光戦略課】	外国人に対して遊及力の高い福山市の観光資源を最適なプロモーションツールを活用し情報発信する。	公共	民間	情報発信								継続の検討
鞆の浦魅力発信推進事業 【文化振興課】	鞆の浦の文化財や伝統文化を活用することで、日本遺産に認定された地域の活性化や国内外への情報発信、観光振興を図る。	公共	民間	情報発信								
びんご圏域観光連携事業 【観光戦略課】	新たな観光コンテンツを開発し、備後圏域を周遊するプロモーションを実施し、広域観光の促進を図る。	公共	民間	「食」による観光コンテンツ開発	プロモーションの実施及び情報発信							
備後圏域プロモーション事業（連携中枢都市圏推進事業） 【備後圏域連携推進室】	備後圏域の魅力や企業で働く若手社員の情報などをWebサイトやSNSで情報発信することで、圏域内住民や周辺地域に対する「備後圏域」の認知度向上を図る。	公共	民間	圏域内企業・社員の取材記事やイベント、観光情報等の発信								
福山版ナイトタイムエコノミーの推進【観光戦略課・文化振興課】	P.67参照	公共	民間	各主体によるイベントの実施			基本方針の策定	基本方針の施行				
ワーケーションふくやま（ワーケーション推進事業） 【企画政策課】	首都圏等の人材・企業に福山市や備後圏域で働く・暮らすことの魅力を発信するとともに、地域資源にふれる機会を提供し、関係人口の増加につなげる。	公共	民間	体験者誘致に向けたプロモーションの実施								継続の検討
都市ブランド戦略推進事業【情報発信課】	福山で生み出される創造性あふれる産品・サービスや素材・技術、取組・活動などを「福山ブランド」として発信する。	公共	民間	福山ブランドを活用した魅力創出								
水産物ブランド化推進事業【農林水産課】	備後圏域の新鮮な水産物を『備後フィッシュ』とし、認知度の向上や魚食普及に向けたPR活動によりブランド化を推進することで、地魚の消費拡大と備後圏域の魅力向上をめざす。	公共	民間	備後フィッシュの食べられる店認定事業			ブランド化推進事業の継続					
				●漁師めし食堂		●第5回備後フィッシュフェス	●第6回備後フィッシュフェス	●第7回備後フィッシュフェス				
デニムプロジェクト【産業振興課】	デニム産地の認知度向上やデニムの魅力向上に向けた情報発信やイベントを実施する。	公共	民間	民間企業と連携して実施								
大会・プロスポーツ等誘致及び賑わい関係事業【スポーツ振興課】	観るスポーツの誘致やスポーツイベントを開催し、スポーツ機運を高める。	公共	民間	誘致活動								
ばらのまち福山国際音楽祭事業【文化振興課】	ばらのまち福山から国際色豊かな演奏家たちによる個性豊かな音楽祭を開催する。	公共	民間	企画策定・音楽祭の実施								

周辺地域と連携して行われる事業

事業名	事業内容	関係者		2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	～2029(R11)
世界バラ会議福山大会の開催事業 【世界バラ会議推進室】	世界バラ会議福山大会開催のための実施計画策定や大会周知のための効果的なPR活動、機運醸成に取り組む。	公共	民間	実施計画策定		実施計画に基づき各種事業を実施			大会参加者登録受付開始・プレイベント開催他	●2025年5月 世界バラ会議福山大会 R6a Expo FUKUYAMA 2025 ばら制定都市会議開催	
福山・笠岡地域公共交通網形成計画 【都市交通課】	福山市、笠岡市がまちづくりと連携して、誰もが移動しやすく、人の交流が活発になる地域公共交通の実現に向けた方針及び事業内容等を示す。	公共	民間	法改正など情報収集		計画の見直し			計画の実行		
サイクリングロード整備・誘客事業 【都市交通課・観光戦略課・スポーツ振興課】	ルート案内看板の設置や路面標示等を行い、自転車を利用しやすい環境を整備するとともに、観光コンテンツとして発信を行い、市外からのサイクリストの誘客を促進する。	公共	民間	メインルートの案内看板設置・路面標示	サブルートの検討、整備など						
				組立場設置	運用開始						
				新の浦しおまち海道サイクリングロードプロモーション				新の浦しおまち海道サイクリングロードの利用促進に向けた取組			
福山市ガーデンツーリズム推進事業 【観光戦略課】	世界バラ会議福山大会を見据え、ばらガーデンをコンテンツとしたモデルコースを造成し、ガーデンツーリズムを推進する。	公共	民間	モニターツアーの実施 (モデルコース)		計画策定 ジャパンガーデンツーリズム登録		情報発信 案内窓口設置 モニターツアー実施	ツアー実施		
自動運転移動サービス実証事業 【デジタル化推進課・都市交通課】	自動運転移動サービスの実装に向けた調査・実証実験を行う。	公共	民間	実装に向けた取組							●2027年度 レベル4実装
せとうちビジネスコンテスト 【企画政策課】	多様な課題を解決し、瀬戸内エリアから社会・地域をより良くしたいと考える社会人・学生のビジネスアイデアを募集・選考し、地域を牽引する事業を創出する。	公共	民間	実施							
地域未来ビジョンの策定及び実施支援 【地域拠点形成推進課】	テーマごとに民間事業者・市民等が地域資源を活用して行う取組について、地域未来ビジョンの策定を支援し、地域の新たな魅力を創出する。	公共	民間	地域資源調査		説明会の実施		ビジョン策定		ビジョン実施	
バス利用者拡大実証事業 【都市交通課】	福山駅周辺で行われるイベント等と連携して、バス利用における料金抵抗感を軽減し、利用促進を図る。	公共	民間	路線バス運賃無料デーの実証事業				効果検証の結果より実施内容を検討			
(仮称) 地域の拠点づくり戦略 【地域拠点形成推進課】	地域の特性を生かした拠点づくりのため、外部専門家の提案を踏まえ、幅広い世代の市民・団体の意見を聞きながら実践的な戦略を策定する。	公共	民間	戦略骨子作成				戦略策定			

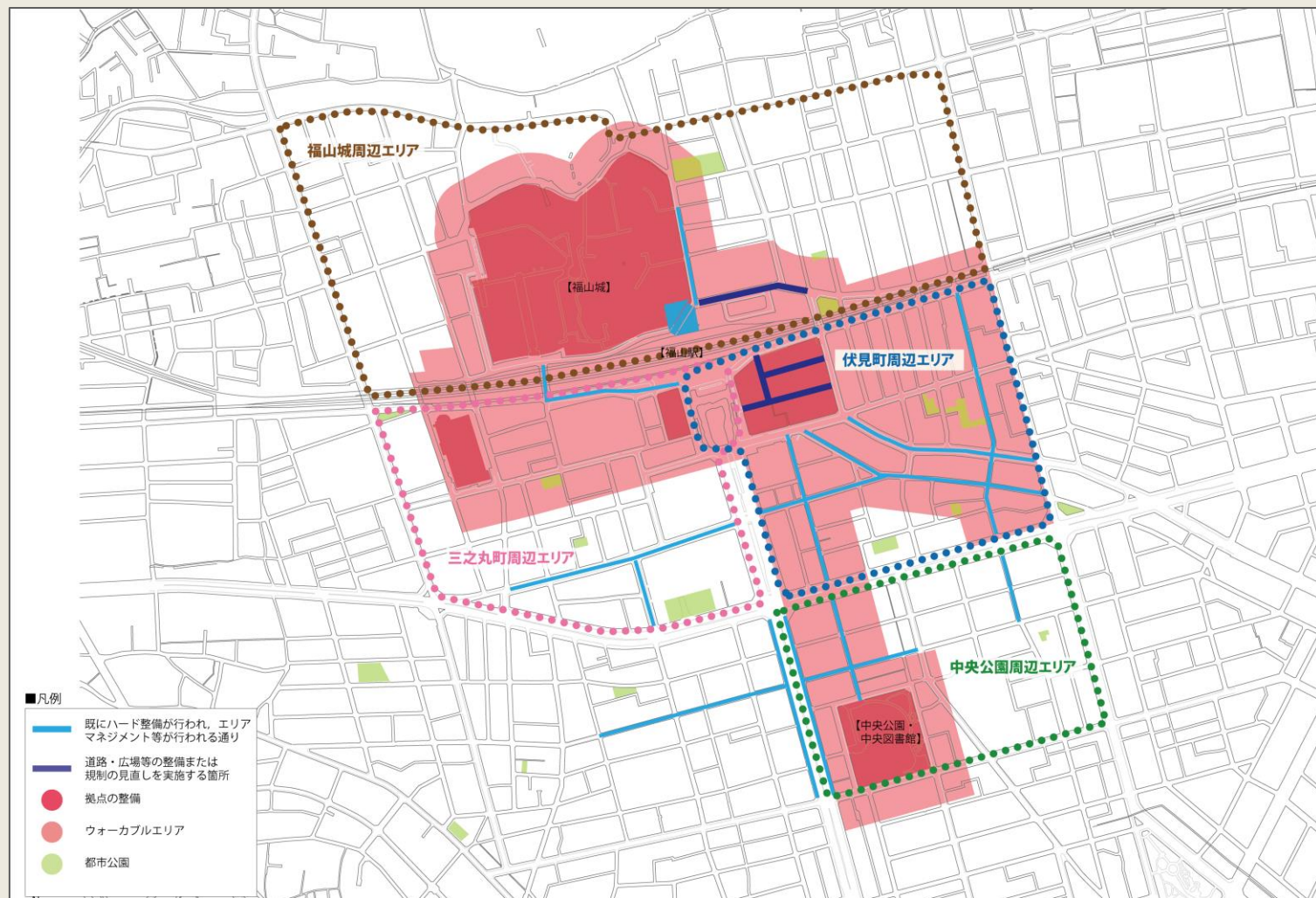
図表31 周辺地域と連携して行われる事業

V 參考資料

01 福山駅周辺の整備イメージ

設定したウォーカブルエリアの内、最初の10年間で優先的に投資などを行うエリア

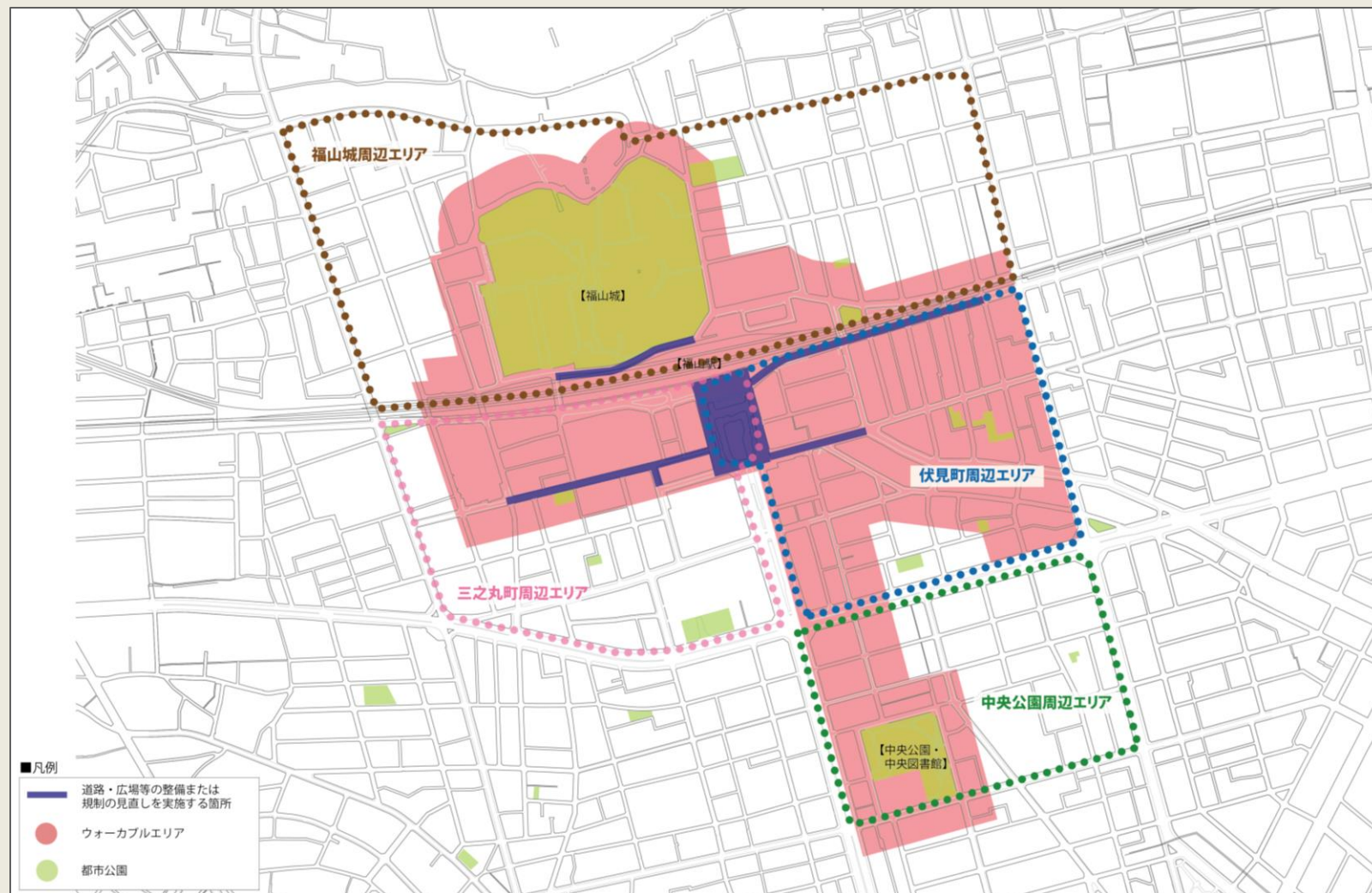
5年後（2020年度～2024年度）



※今後、調査・検討をしていく中で変更となる可能性があります。

図表32 福山駅周辺の整備イメージ（5年後）

10年後（2025年度～2029年度）

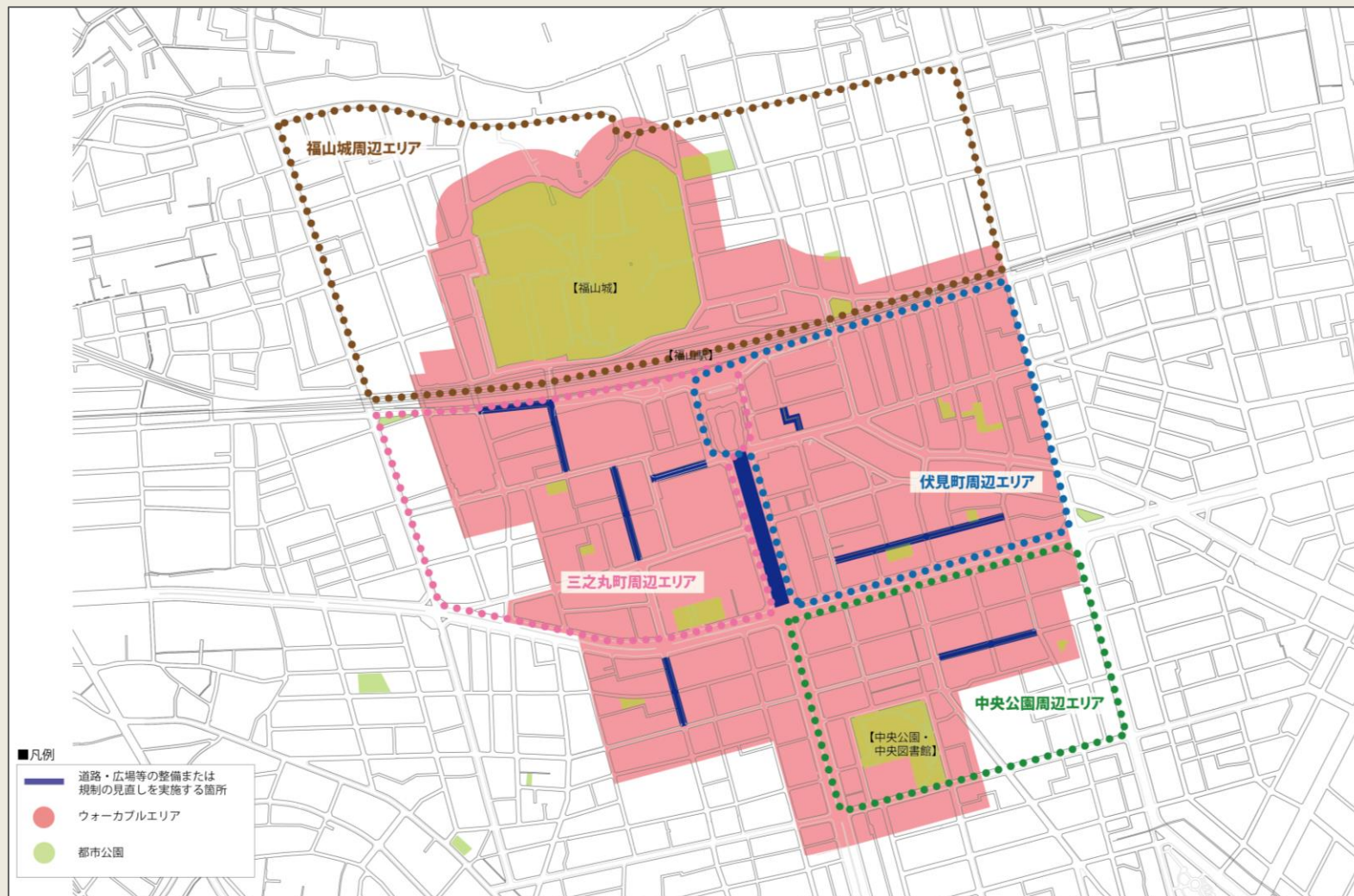


※今後、調査・検討をしていく中で変更となる可能性があります。

図表33 福山駅周辺の整備イメージ（10年後）

次の10年間で残りのエリアに投資を行うことで、歩行者動線を強化し、各エリア間の回遊性を高めます。

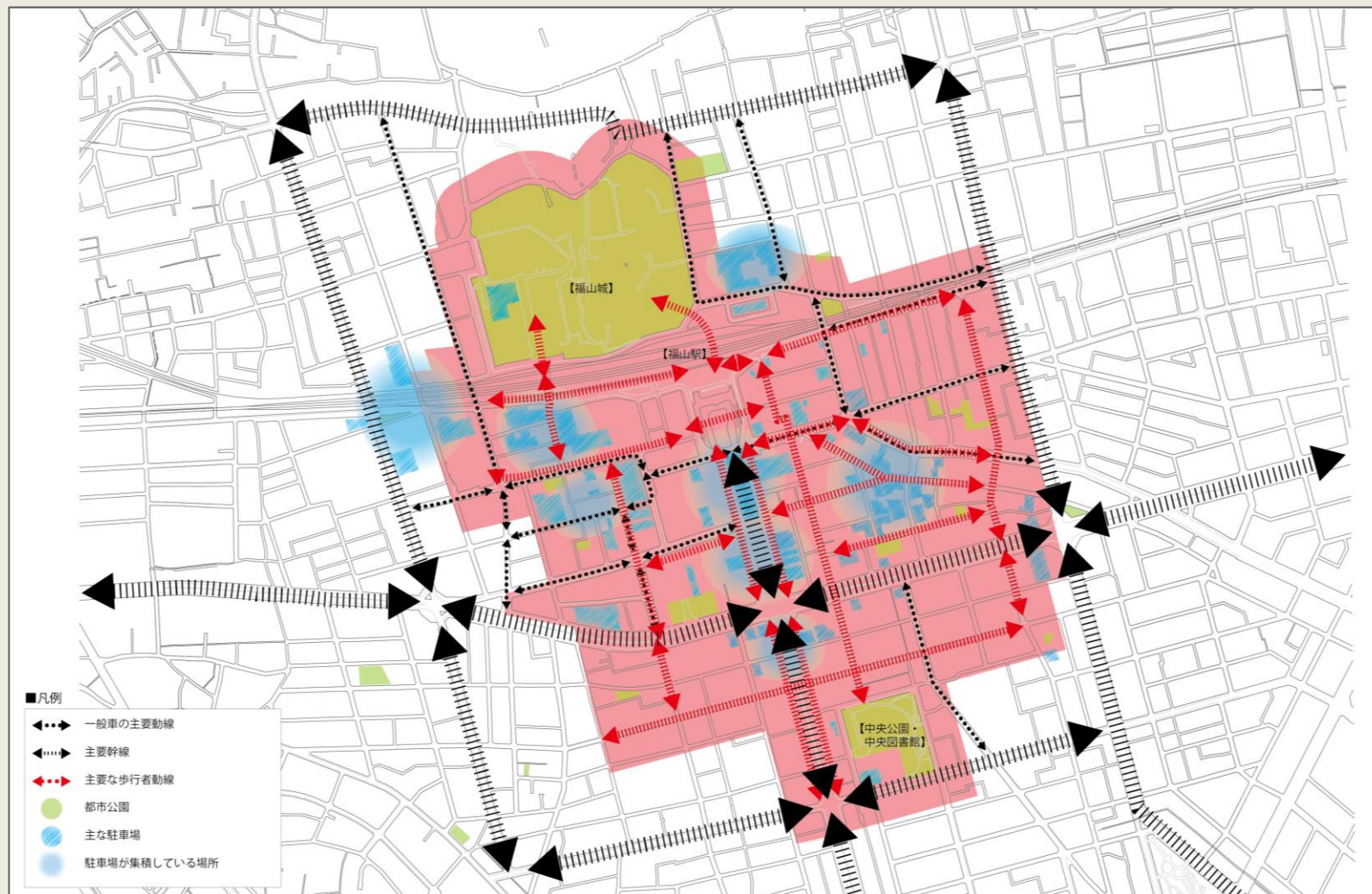
20年後（2030年度～2039年度）



※今後、調査・検討をしていく中で変更となる可能性があります。

図表34 福山駅周辺の整備イメージ（20年後）

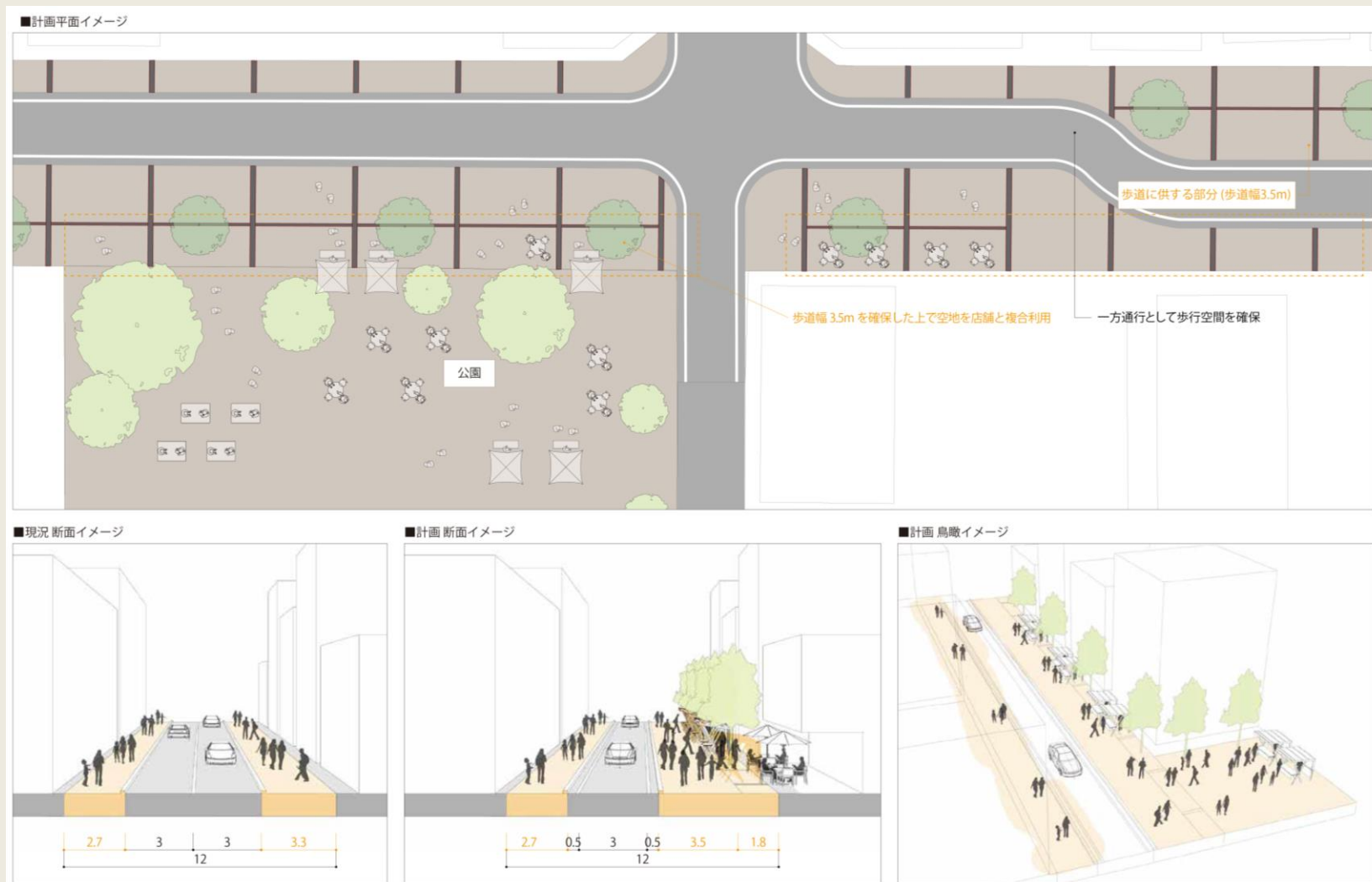
02 駐車場が集積している場所



図表35 駐車場が集積している場所

03 歩行空間のイメージ

路面階の店舗が通りに向けて開かれ、道路と公園が複合利用される歩行空間のイメージを示します。



※今後、調査・検討をしていく中で変更となる可能性があります。

図表36 歩行空間のイメージ

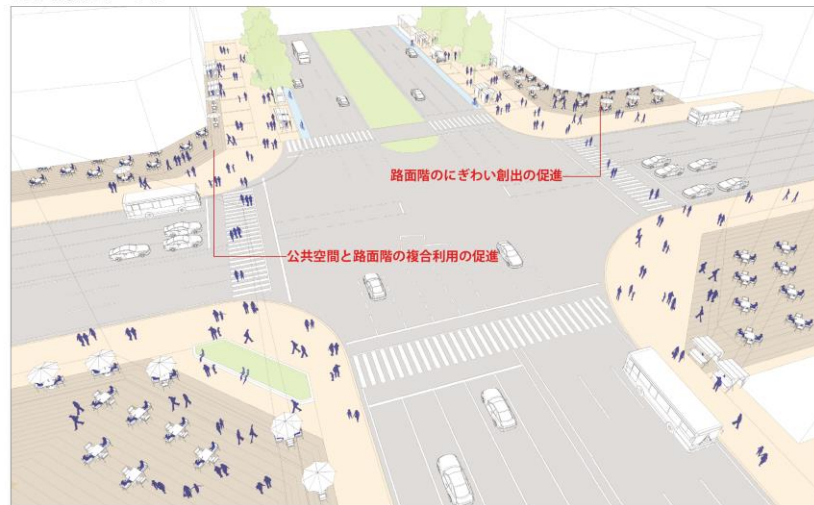
04 交差点のイメージ

交差点の公共空間と路面階を複合利用することによって、交差点により分断されたエリアをつなぐイメージを示します。

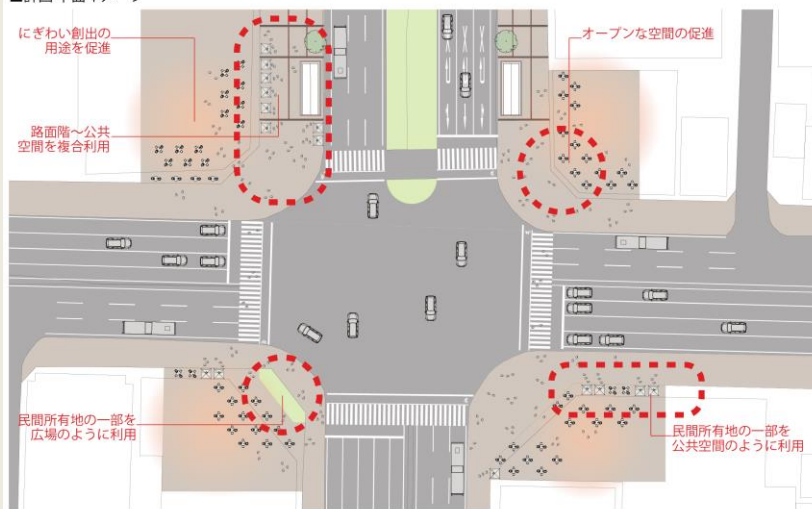
■現況 鳥瞰イメージ



■計画 鳥瞰イメージ 01



■計画 平面イメージ



■計画 鳥瞰イメージ 02



■交差点の参考事例 01



■交差点の参考事例 02



※今後、調査・検討をしていく中で変更となる可能性があります。

図表37 交差点のイメージ

05 ウォーカブルなストリートのイメージ

ウォーカブルなストリートを形成するためには、官民が一体となって、道路や沿線の空間の使い方を変える必要があります。

歩道のある道路の場合

Before



道路空間の使い方の例

- ・車線数を減らすことによる歩道の拡幅
- ・一方通行化
- ・クラंक・スラローム（速度抑制）
- ・座れる場所の整備
- ・道路緑化
- ・シェアドスペース※¹⁴ など

沿線の空間の使い方の例

- ・民地のオープンスペース化
- ・建物低層部の可視化・オープン化（ガラス張り化・オープンテラス化）など

After



図表38 ウォーカブルなストリートのイメージ①

歩道のない道路の場合

Before



道路空間の使い方の例

- ・歩行者専用化（時間指定を含む）など

沿線の空間の使い方の例

- ・民地のオープンスペース化
- ・建物低層部の可視化・オープン化（ガラス張り化・オープンテラス化）など

After



図表39 ウォーカブルなストリートのイメージ②

06 これまでの成果

1日当たりの流動客数

伏見町※ 9:00～19:00



2017年度

平日 841人

休日 881人



2022年度

平日 1,081人 約**1.2倍**

休日 1,267人 約**1.4倍**

地価公示価格 (ウォークアブルエリア内)

※商業地の5地点



2016年から2024年までの9年間で

平均約**20%上昇**

※ウォークアブルエリア外の商業地の上昇率は平均約**10%**

駅周辺の11の商店街営業店舗数 (外観目視調査)



2017年度

428店舗



2023年度

467店舗 (**39店舗増**)

福山城公園夜間来訪者

※18時～翌6時

(お出かけウォッチャー調査)



2019年

3.3万人



2023年

7.4万人 約**2.2倍**

事業名	成果指標	当初現況値（年度）	最終目標（年度） 【達成状況】
福山城天守他耐震改修工事、 展示リニューアル 【文化振興課】	1 福山城等の利用者数 2 福山市が力を入れている取組や地域資源の市民の認知度 3 福山市に関する事柄で首都圏在住者が知っているもの 出典：福山市情報発信に係るインターネット調査	①100,358人（2018年度） ②40.7%（2018年度） ③15.0%（2018年度）	①100,000人（2022年9月～2023年3月分） ②90%（2022年度） ③40%（2022年度） 【実績：①118,363人②77.6%③19.4%(2022年度)】
三之丸町地区優良建築物等整備事業 【民間事業者】	三之丸町内における流動客数	（平日）22,999人/日 （休日）28,721人/日 （2017年度）	（平日）31,500人/日（休日）36,000人/日（2024年度） 【実績：（平日）24,036人/日（休日）26,255人/日(2024年度)】
中央公園Park-PFI事業 【公園緑地課・民間事業者】	中央公園での一般参加可能イベント数	10件（2018年度）	15件（2021年度） 【実績：21件（2021年度）】
リノベーションまちづくり 【福山駅周辺再生推進課・産業振興課・都市計画課】	都市再生推進法人の指定件数（累計）	0件（2019年度）	4件（2024年度） 【実績：2件（2024年度）】
	伏見町の流動客数	（平日）881人/日 （休日）841人/日 （2017年度）	（平日）1,140人/日（休日）1,190人/日（2024年度） 【実績：（平日）917人/日（休日）1,036人/日(2024年度)】
公園等利活用促進事業 【福山駅周辺再生推進課】	公共空間の活用件数（累計）	1件（2019年度）	5件（2023年度） 【実績：8件（2023年度）】 （歩道等公共空間の活用）
福山・笠岡地域公共交通網形成計画 【都市交通課】	市内における公共交通機関利用者数	1,951万人（2015年度）	1,951万人（2021年度） 【実績：1,551万人（2021年度）】
サイクリングロード整備・誘客事業 【都市交通課・観光戦略課・スポーツ振興課】	サイクリングロード整備延長	—	10.5km（2020年度） 【実績：6.3km（2020年度）】
せとうちビジネスコンテスト 【企画政策課】	実現したビジネスアイデア数	—	5件（2024年度） 【実績：4件（2024年度）】

07 これからの目標

事業名	成果指標	当初現況値（年度）	最終目標（年度） 【達成状況】
福山駅前広場再編事業 【福山駅周辺再生推進部・都市部・土木部】	駅前広場の環境空間の割合	44%（2020年度）	50%以上（2039年度）
	ウォーカブルな空間の割合	35%（2020年度）※ 1 50%（2020年度）※ 2	43%（2039年度）※ 1 100%（2039年度）※ 2
ばらのまち福山PR活動事業 【世界バラ会議推進室】	首都圏における「ばらのまちづくり」の認知状況 出典：福山市情報発信に係るインターネット調査	3.1%（2017年度）	20%（2025年度）
MICEの推進 【観光戦略課】	市内におけるMICE開催件数	53件（2019年度）	77件（2025年度）
地域未来ビジョンの策定及び実施支援 【地域拠点形成推進課】	地域未来ビジョン策定数	1件（2024年度2月時点）	2件（2025年度）
（仮称）地域の拠点づくり戦略	戦略の策定数	－	1件（2025年度）

（注）各事業の成果指標は、今後変更となる可能性があります。

※ 1 ウォーカブルエリア内の主要な道路等のうち、居心地が良く歩きたくなる空間となるよう、整備または規制の見直しを行う道路等の歩行空間の面積の割合

※ 2 ウォーカブルエリア内の主要な道路等のうち、居心地が良く歩きたくなる空間となるよう、整備または規制の見直しを行う道路等の延長の割合

08 福山駅前デザイン会議の開催経過

2018

第1回 福山駅前デザイン会議

日時：2018年（平成30年）5月21日（月曜日）

第2回 福山駅前デザイン会議

日時：2018年（平成30年）8月20日（月曜日）

議題：福山駅周辺の公共空間の近未来について～その課題と活用法～

2019

第3回 福山駅前デザイン会議

日時：2019年（平成31年）1月24日（木曜日）

議題：（仮称）デザイン計画の骨子（案）について

第4回 福山駅前デザイン会議

日時：2019年（令和元年）6月10日（月曜日）

議題：エリア価値を高める民間プロジェクトと公民連携プロジェクトについて

第5回 福山駅前デザイン会議

日時：2019年（令和元年）9月26日（木曜日）

議題：官民連携で福山駅前を歩いて楽しいまちなかに変える

2020

第6回 福山駅前デザイン会議

日時：2020年（令和2年）2月13日（木曜日）

議題：福山駅周辺デザイン計画（案）について

福山駅前再生に向けたエフビコRiM再生手法の基本的な考え方（案）について

パブリックコメント

期間：2020年（令和2年）2月18日（火曜日）から

2020年（令和2年）3月19日（木曜日）まで

福山駅周辺デザイン計画 策定・公表

第7回 福山駅前デザイン会議

日時：2020年（令和2年）6月1日（月曜日）

議題：エフビコRiM再生の進め方（案）について
都市再生推進法人の指定に向けた検討について

第8回 福山駅前デザイン会議

日時：2020年（令和2年）8月28日（金曜日）

議題：エフビコRiM再生事業運営事業者公募要項の骨子（案）について
福山における新しいオフィスの可能性について

2021

第9回 福山駅前デザイン会議

日時：2021年（令和3年）2月18日（木曜日）

議題：福山駅周辺デザイン計画の更新について
ウォーカブルな福山駅前広場のあり方について

福山駅周辺デザイン計画更新

第10回 福山駅前デザイン会議

日時：2021年（令和3年）5月31日（月曜日）

議題：ウォーカブルな駅前広場の実現に向けて

第11回 福山駅前デザイン会議

日時：2021年（令和3年）8月23日（月曜日）

議題：福山駅前広場の環境空間のイメージを共有しよう

2022

第12回 福山駅前デザイン会議

日時：2022年（令和4年）2月14日（月曜日）

議題：2021年度取組報告及び次年度に向けて
～福山駅周辺で起こっている出来事と将来～

福山駅周辺デザイン計画更新

第13回 福山駅前デザイン会議

日時：2022年（令和4年）6月1日（水曜日）

議題：官民連携による情報発信について

第14回 福山駅前デザイン会議

日時：2022年（令和4年）8月30日（火曜日）

議題：福山駅前広場整備の基本方針について
官民連携による良質な民間投資・公共空間の活用に向けて

2023

第15回 福山駅前デザイン会議

日時：2023年（令和5年）2月16日（木曜日）

議題：福山駅前広場整備基本方針（案）について

福山駅周辺デザイン計画更新

第16回 福山駅前デザイン会議

日時：2023年（令和5年）7月25日（火曜日）

議題：福山駅周辺の取組について
福山駅前広場整備の今後の進め方について

第17回 福山駅前デザイン会議

日時：2023年（令和5年）10月11日（水曜日）

議題：ふくまちエリアにおける福山駅前広場の役割と広場空間の管理運営について

2024

第18回 福山駅前デザイン会議

日時：2024年（令和6年）2月8日（木曜日）

議題：駅前広場の再編とまちの変化を踏まえたウォーカブルな空間づくりについて

福山駅周辺デザイン計画更新

第19回 福山駅前デザイン会議

日時：2024年（令和6年）7月19日（金曜日）

議題：ふくまちエリアにおけるこれまでの取組の成果と課題について

第20回 福山駅前デザイン会議

日時：2024年（令和6年）10月18日（金曜日）

議題：福山駅周辺デザイン計画更新の構成について
エフビコRiM 他フロアの活用について
福山駅周辺の駐輪場の暫定整備について

2025

第21回 福山駅前デザイン会議

日時：2025年（令和7年）2月18日（火曜日）

議題：

福山駅周辺デザイン計画更新

09 福山駅前デザイン会議構成員名簿

座長	清水義次（株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役）
福山駅前再生 アドバイザー	岡崎正信（オガールプラザ株式会社代表取締役）
	西村 浩（株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役）
	松本大地（株式会社商い創造研究所代表取締役）
大学	渡邊一成（公立大学法人福山市立大学都市経営学部教授）
市	企画財政局参事
	市長公室長
	市長公室世界バラ会議推進担当部長
	企画財政局企画政策部長
	企画財政局福山駅周辺再生推進部長
	総務局総務部長
	経済環境局経済部長
	経済環境局文化観光振興部長
	保健福祉局福祉部長
	市民局まちづくり推進部長
	建設局建設管理部長
	建設局土木部長
	建設局都市部長

関係機関	株式会社CAP
	株式会社中国銀行
	株式会社築切家守舎（都市再生推進法人）
	独立行政法人都市再生機構
	西日本旅客鉄道株式会社
	株式会社広島銀行
	広島県
	広島県福山東警察署
	福山商工会議所

2025年（令和7年）3月時点

10 用語解説

No	頁	用語	説明
1	5	エリア価値	敷地単位の価値ではなく、一定のエリアを対象として捉えた価値のこと
2	8	ウォーカブルエリア	多様な人々が集い、交流し、滞在する「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成をめざす区域（国土交通省）
3	18	グリーンスローモビリティ	電動で時速20km未満で公道を走る事が可能な4人乗り以上のパブリックモビリティのこと（国土交通省）
4	19	エリアマネジメント	特定の地域において、住民・事業者・地権者などが連携してオープンカフェやイベント、プロモーション活動などを行うことにより、その地域全体の価値を効率的に維持・向上させる民間の主体的な取組のこと
5	23	コンテンツ	まちを構成する人や産業のこと
6	24	都市のスポンジ化	都市の内部において、空き地、空き家等の低未利用の空間が、小さな敷地単位で時間的・空間的にランダムに、相当程度の分量で発生する現象のこと（「都市計画基本問題小委員会中間とりまとめ概要」2017年 国土交通省）
7	39	Park-PFI	飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する「公募設置管理制度」のこと（「都市公園の質の向上に向けたPark-PFI活用ガイドライン」2017年 国土交通省）
8	41	まち宿	まちを一つの宿と見立て宿泊施設と地域の日常をネットワークさせ、まちぐるみで宿泊客をもてなすことで地域価値を向上していく事業のこと（一般社団法人日本まちやど協会）

No	頁	用語	説明
9	50	Q O L	Quality of Lifeの略。生活の質
10	51	高次都市機能	日常生活を営む圏域を超えて広域的に影響を及ぼし、地域の自立的発展に資する都市機能のこと（「備後圏域の整備、開発及び保全の方針」2011年広島県）
11	58	歩行者利便増進道路制度（ほこみち）	「道路空間を街の活性化に活用したい」「歩道にカフェやベンチを置いてゆっくり滞在できる空間にしたい」など、道路への新たなニーズの高まりを受けて、2020年に成立した改正道路法により創設された制度。歩行者利便増進道路に指定することで、「歩行者の利便増進を図る空間」を歩道内に定めることができ、その空間内で道路占用が柔軟に認められる
12	67	エリアMICE	大規模一体型施設によるオールインワン型MICEに代わり、都心の会議施設、ホテル、商業施設等が連携して地域ぐるみでMICE機能を提供しようとするもの。様々な都市機能を活用した魅力的な都市サービスを楽しむ点に特色があり、競争力のある新たなMICE形態として期待される
13	67	ユニークベニュー	「博物館・美術館」「歴史的建造物」「神社仏閣」「城郭」「屋外空間（庭園・公園、商店街、公道等）」などで、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のこと
14	77	シェアドスペース	限られた道路幅員の中で、歩道と車道の分離構造を設けず、主に視覚的な操作によって、自動車速度を抑制することで、歩行者と自動車とが共存できる環境を創出するデザインのこと

福山駅周辺デザイン計画

発行日：2020年（令和2年）3月
更 新：2021年（令和3年）3月
2022年（令和4年）3月
2023年（令和5年）3月
2024年（令和6年）3月
2025年（令和7年）3月

発 行：福山市 企画財政局 福山駅周辺再生推進部 福山駅周辺再生推進課
〒720 - 8501 福山市東桜町3番5号
電話：084 - 928 - 1094 FAX：084 - 928 - 1735
URL：http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/

<図表について>

・次の図表は、国土地理院の基盤地図情報をもとに編集・加工して作成しています。
図表8・9・11・12・16・18・21・22・23・28・30・34・36・37・38・39・40